書象

平成二十六年十月一日発行（毎月一回一日）
書　象　第六十二巻　第十号　通巻七〇七号

日本書道芸術協会

2014－10

巻頭言

夏季合宿の成果

副理事長　内藤望山

台風十一号の接近で書象会合宿練成会が心配されていたが、幸いにも長野県下は被害もなく、予定通り開催することができた。高原のような爽やかな室温の中、例年のように六部門に分かれて錬成開始、日展部門は直ちに持参作品の批評会。作品制作上の課題が一人一人に示され、その改善に向け練習に突入した。合宿という非日常的な時間の中、自己との闘いが高度に集中して行く。真剣な取り組みが忽ち緊迫した雰囲気を煽り出しているようであった。充実したスタートである。

他の部門では、書表現における基本に立ち返り、執筆法、腕法、運筆法等々を聴き、自らを確認する。一方指導講師の手本揮毫から、字形の位置、大きさ、太さと全体構成の取り方、墨色（潤渇）のつけ方を学ぶ。一点一画の線質の強さ、深さ、重厚美を看取し、如何に「基本」の大切さが悟られたことであろうと思う。かつて上條信山先生が「基礎・基本が不正確であると上達はおろか、自己流になって書の大道を悟ることができない結果となる…」と話されたことがある。合宿はこうした基本事項を確認し、反省するよい機会でもある。今後は合宿前に信山書法基本帖から該当する帖を取り出し、よく精習されることをお勧めしたい。

ある方の作品で発墨の良さが目に止まった。美しい墨色の輝きである。隣の方の滲みの豊かさと併せて「墨に百色あり」の話をした。興味を惹かれたようで、急に人の輪ができた。どんな墨がよろしいか、筆、紙についての質問も多く出た。業者の販売する製品には各々特質がある由、指導者や先輩方の意見が大いに参考になる等、合宿ならではの情報収集はとても貴重である。

また合宿では書友との久し振りの再会や、新たな出会いの楽しみがあり、書道活動に豊かさを添えることが多い。前回から採用された「疑問、質問、何でも相談」は六部門で回答時間が設けられ、真剣に応答がなされ、好評を得たようである。

合宿に対してのアンケートで、会期、会場、費用、内容についての意見が多く寄せられた。本部では研修部を中心にアンケートも参考にして更なる充実と、多くの書象会員が参加できる合宿となるよう検討を重ねていかなければならない。

一九七八年　上條信山先生書「虚心」

基本

上條信山先生書

日月　常処せず

10月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付
手本は卦線入りですが、出品者は卦線のない半紙を使用してください。

行書臨書規定（師範・準師範・段位）　集王聖教序

上條信山先生書

文は風雲の潤いを抱く

10月20日必着
出品券を貼付

文字の中心線をどこに置くか、更にポイントは何かと記してみました。

文…最終画の長い右払い。

抱…最終画の空間○印を広く。

風…強い背勢の構造。

雲…冠の右への張り出し。

之…縦長の構造。

潤…緩い背勢の構造。

行書臨書規定（級位）

集王聖教序

上條信山先生書

理は（金石の声を）含み……

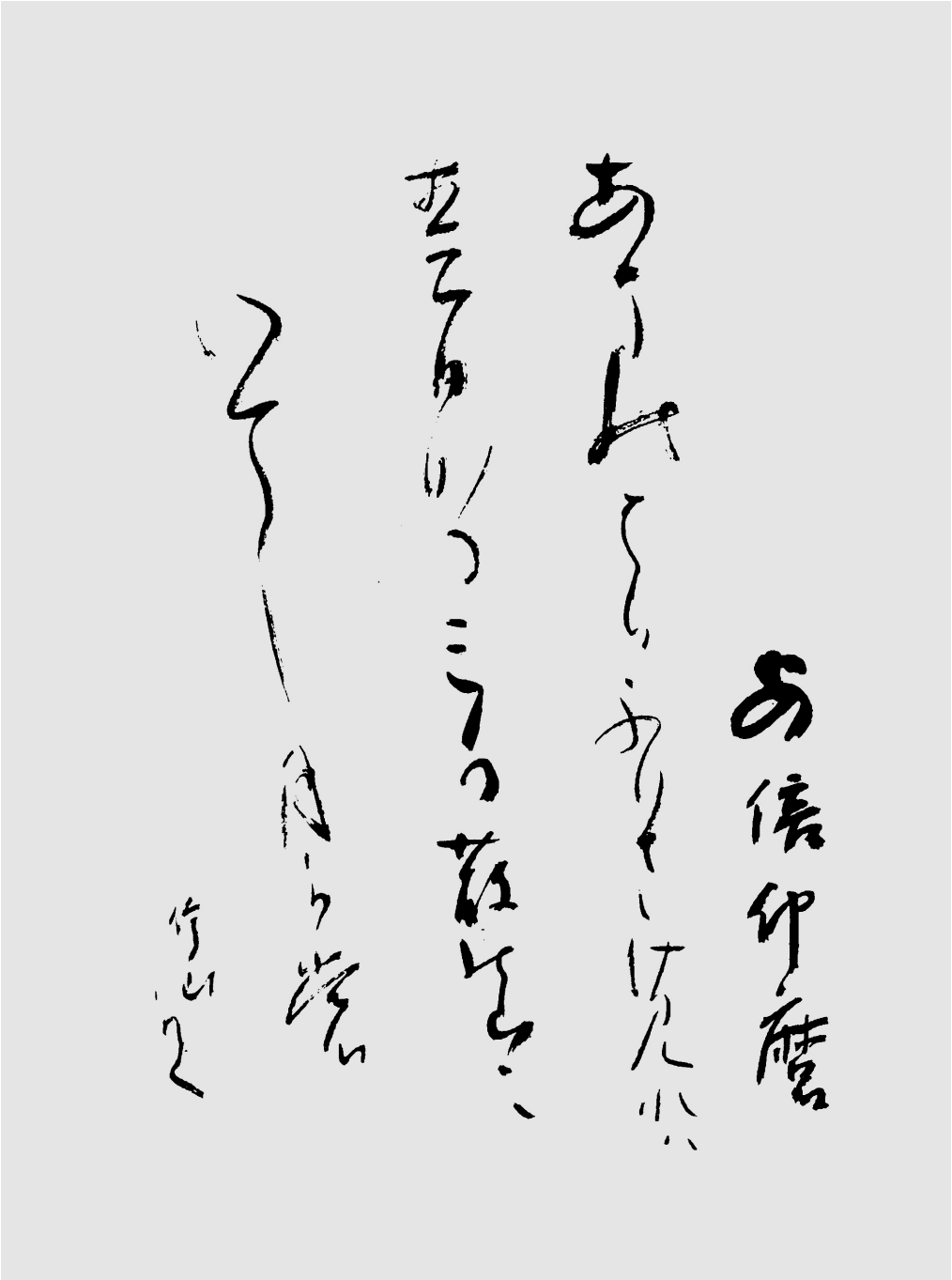
・密・粗のバランスを重視して伸びやかに書く。

・「理」偏と旁の位置・大きさに注意して一筆で書く。横画は平行気味に書くとともに長短にも注意する。

・「含」の左払い・右払いは大きくのびのびと。「う」は「の」と書く。

仮名規定（師範・準師範・段位）

上條信山先生書

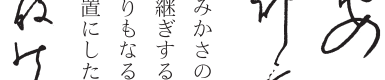


安倍仲麿

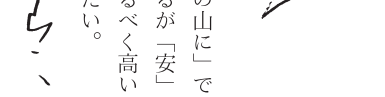
あま（万）の（能）は（者）らふりさけ見れば（ハ）
春日な（那）るみ（三）か（可）さ（散）の（能）山に（ニ）いでし月か（可）も（裳）　（小倉百人一首）

10月20日必着
出品券を貼付

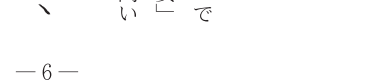
・「安倍仲麿」読み人から書きはじめる。



・「みかさの山に」で墨継ぎするが「安」よりもなるべく高い位置にしたい。



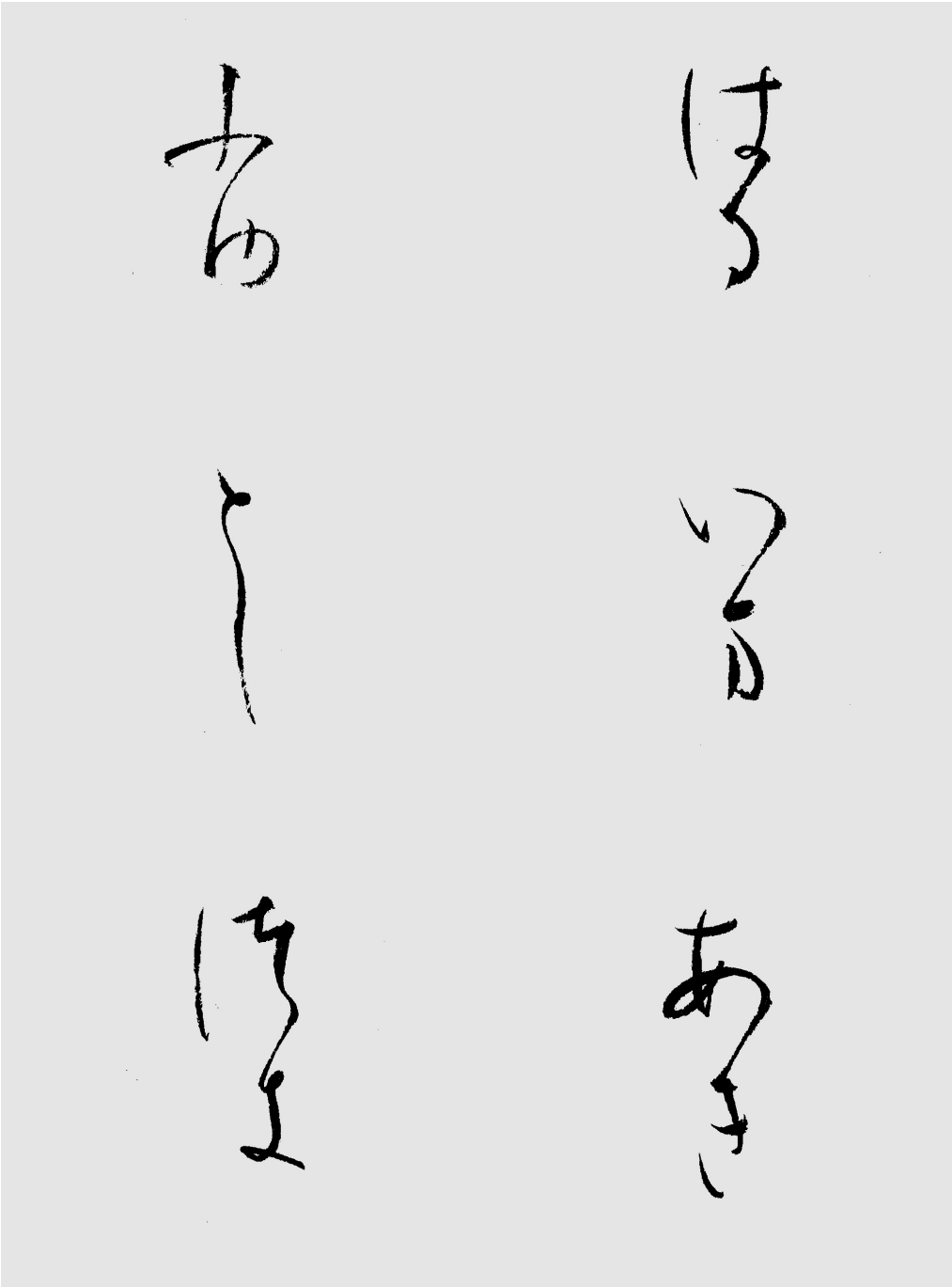
・「月かも」最後は渇筆だが、微妙な線の強弱を表現するように。



・落款は自分の名前を書くように。

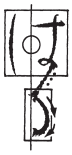
仮名規定（級位）

上條信山先生書



はる　いま（万）　あき
ふゆ　とし　つ（徒）き（支）

・連続線は直線で短く書く。そのために「る」字全体が右よりとなる。



・連続線を短くして、「万」字の始筆を右よりに短く書く。

・「あ」字の終筆が、そのまま連続線となり、「き」字の始筆に続く。

・「ふ」字の終画の点を遠くに打たないで、下の字に続けやすく書く。
「ゆ」字は小さめに右によせてつくる。

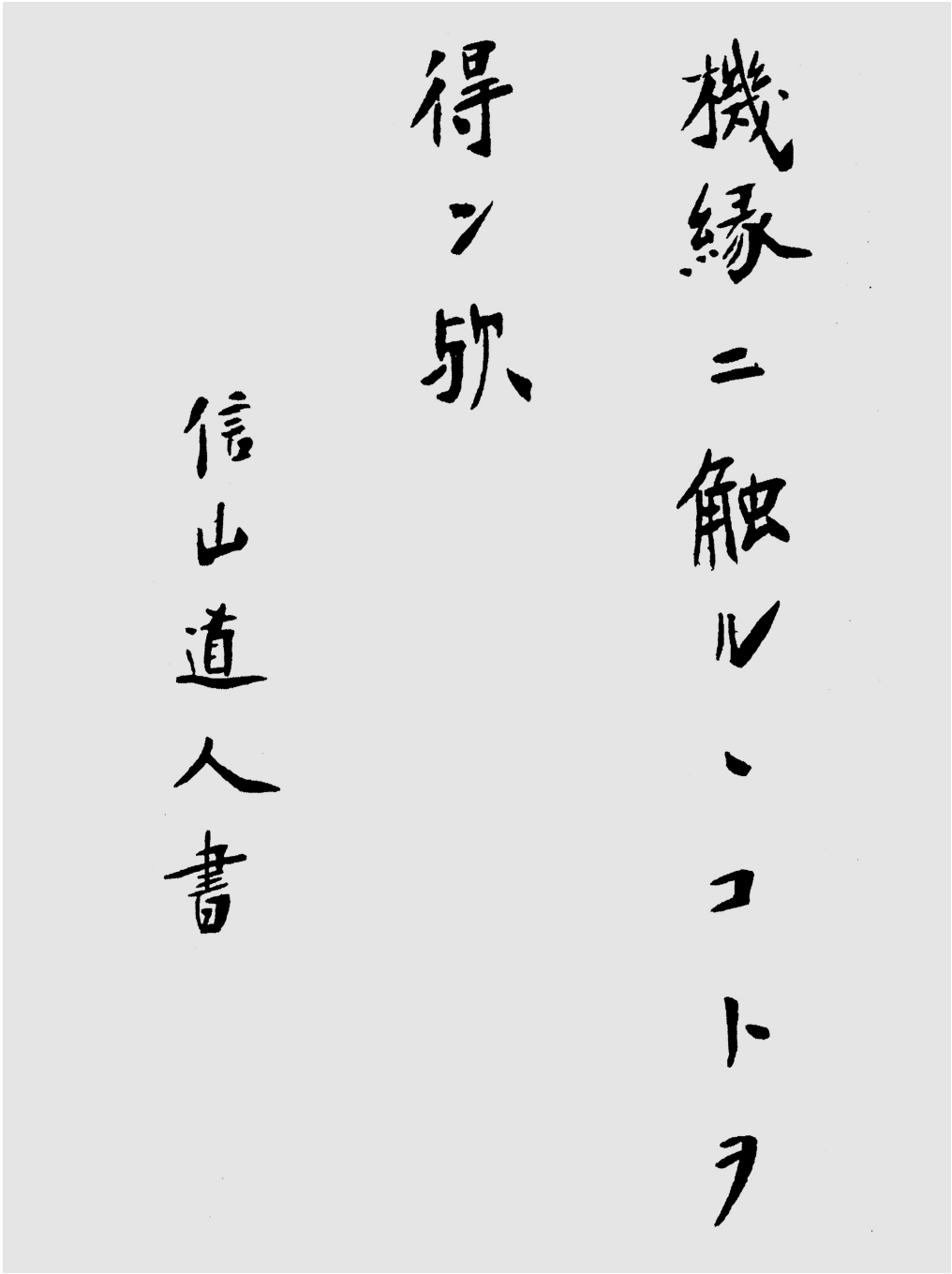
・「と」字の終わりの部分をそのまま「し」へ連続させる。

・「徒」の終画を横にぬかないで、下に流すようにして「支」に続ける。

研究

上條信山先生書

機縁ニ触ルルコトヲ
得ン欤　信山道人書



10月20日必着　出品券を貼付
入選作のみ発表します

- 多画数の漢字と少画数のカタカナとの調和が美しい右絃の碑の最終尾である。
- 漢字は偏と旁のバランスを把握すること。

- 「信山道人書」の位置に注意。空間を美しく見せる。

漢字条幅規定

市澤静山先生書

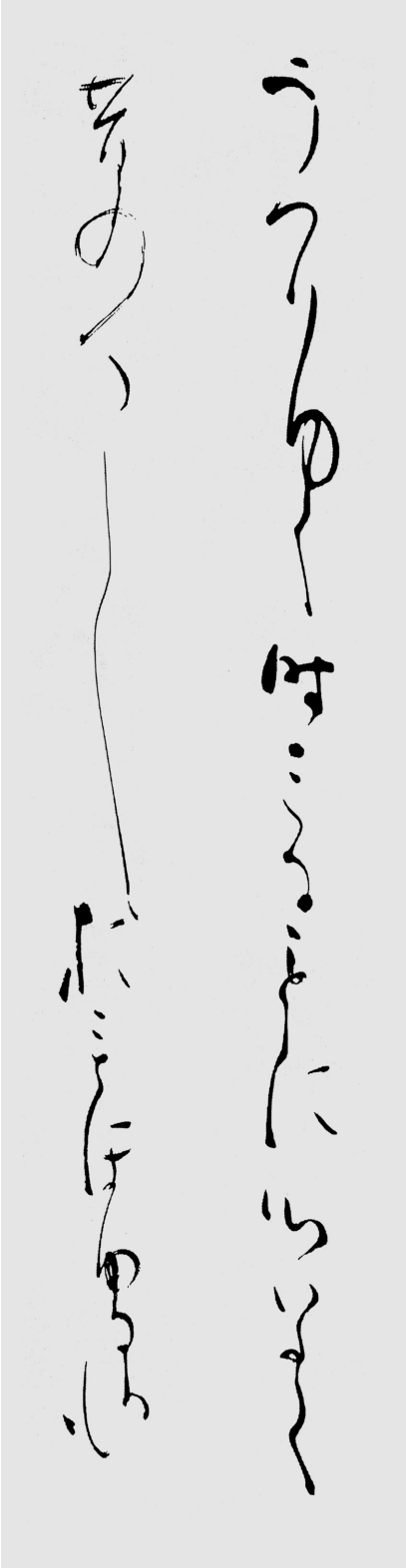
段級位を明記のこと

天高くして気清し　（宋玉）

・墨継ぎは「氣」で。「天」の右払いは長く。
・「氣」は米をやや左に置いてバランスを保つ。
・「清」は偏と旁の間を空ける。

仮名条幅随意

上條信山先生書

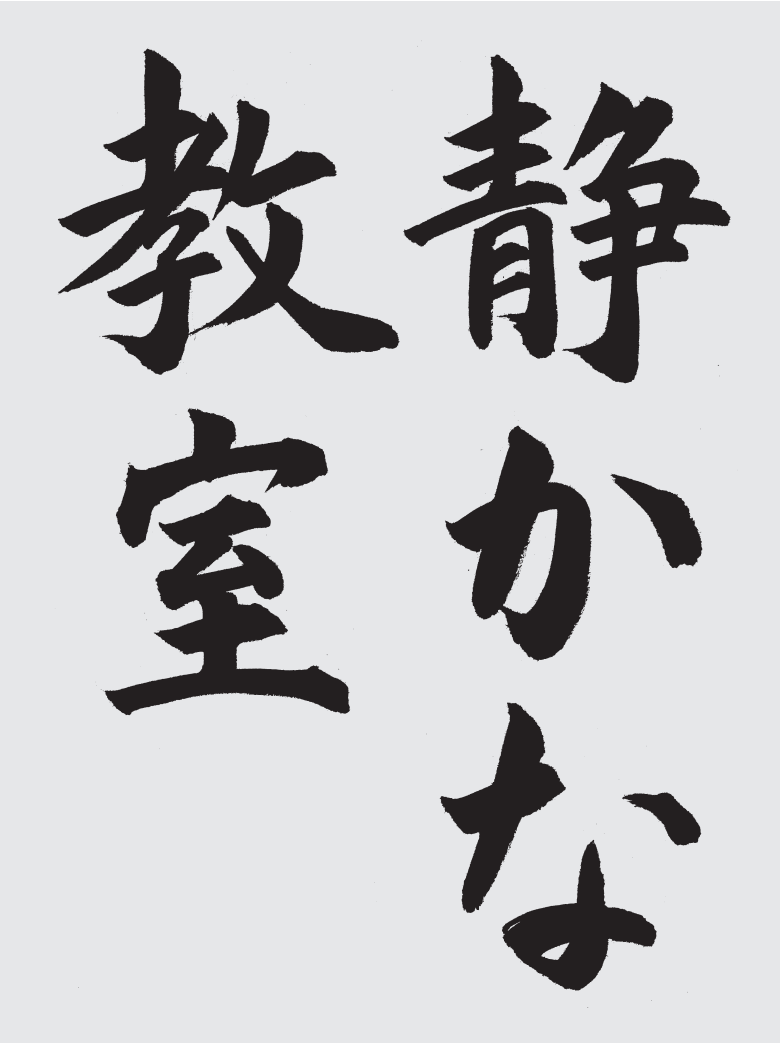


入選作のみ発表します

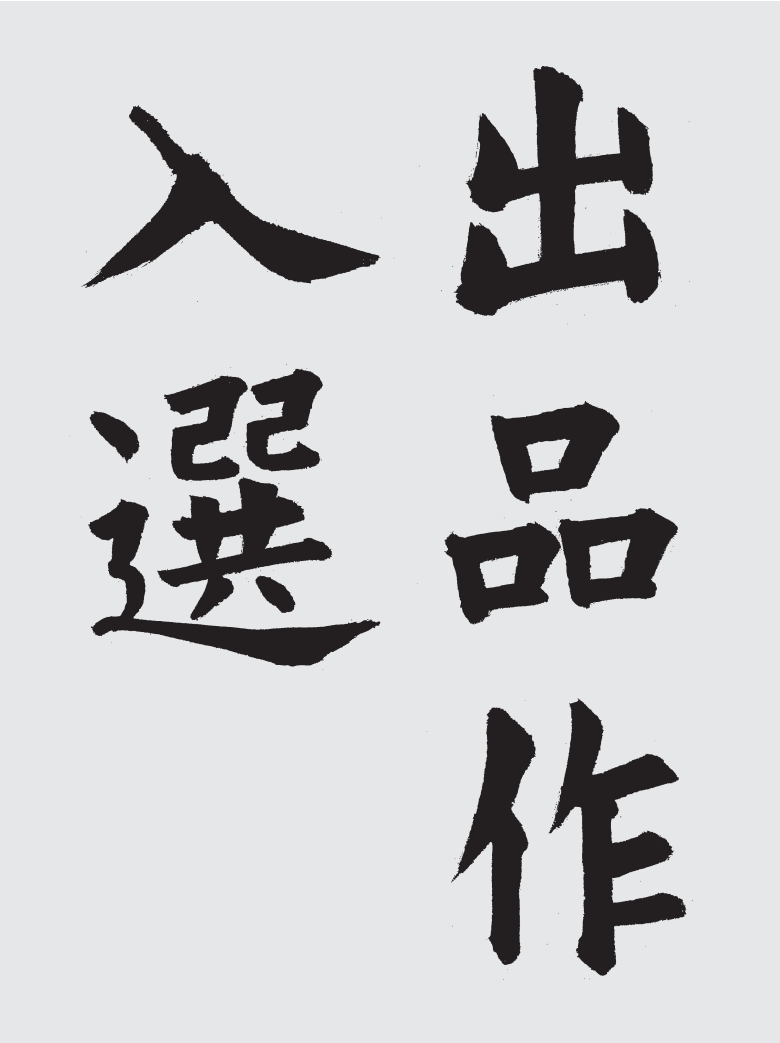
出品券を貼付

うつりゆく時み（三）るごとに心いた（多）く
昔の人しお（於）も（毛）ほゆるか（可）も　（万葉集）

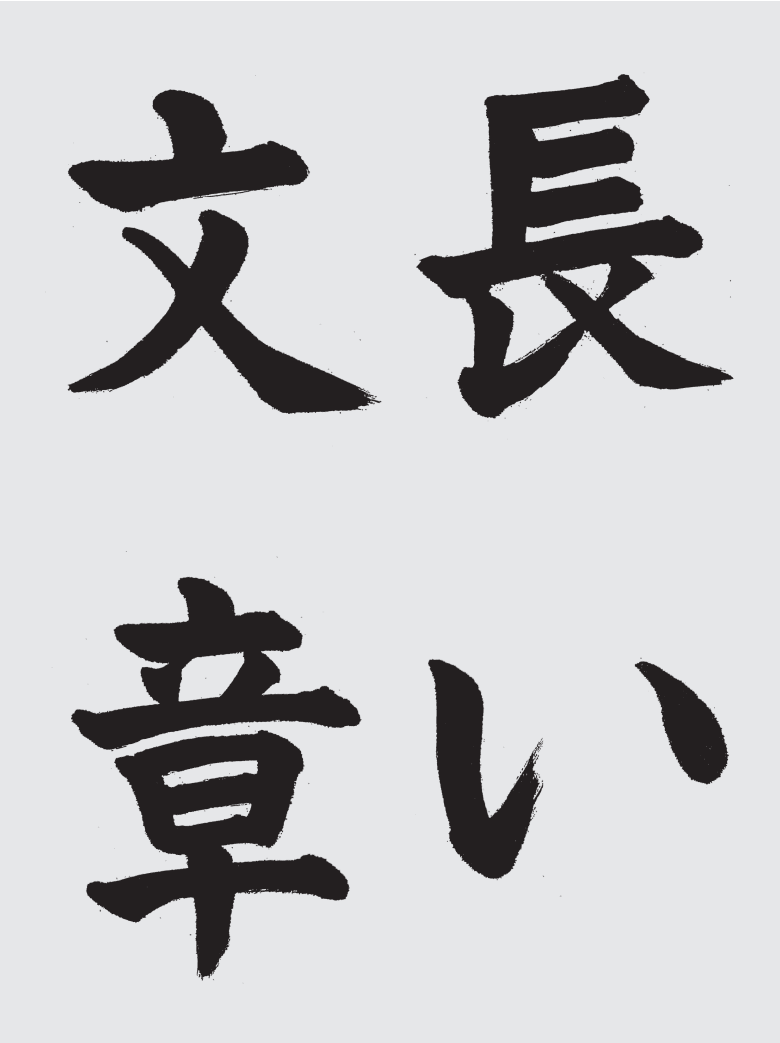
・一行目は墨量を多めにするが重くならない様に。
・二行目の上部は渇筆で軽快に。「於」で軽く含墨する。
・「ごとに」「昔の」「ゆるか（可）も」　はP14参照。



中学一年規定　　樋口玄山先生書

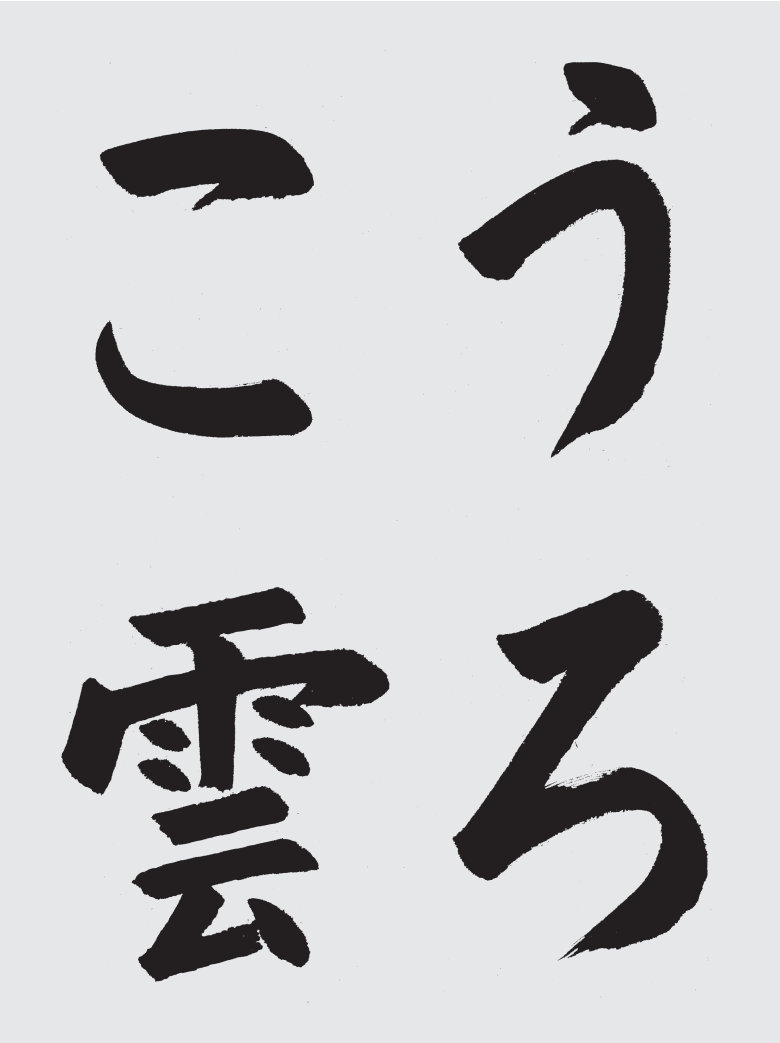


中学二・三年規定　　田中節山先生書

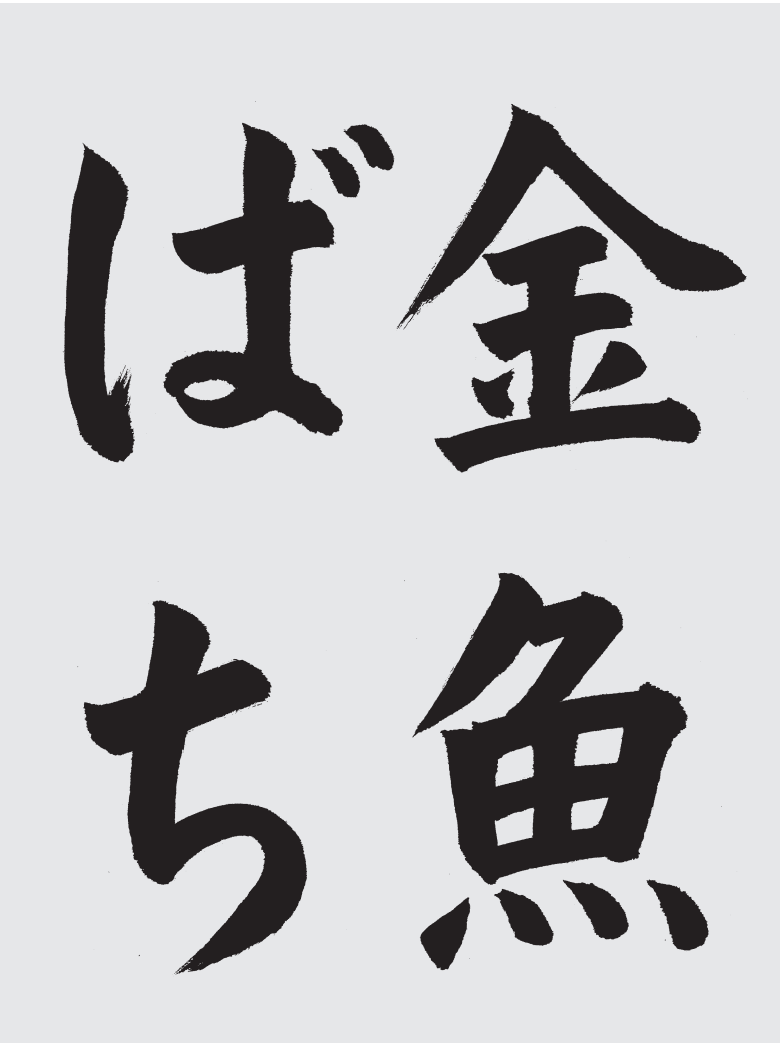


小学五年規定　　髙瀬霞山先生書

小学六年規定　　柳澤玄嶽先生書



小学三年規定　　畑中高山先生書



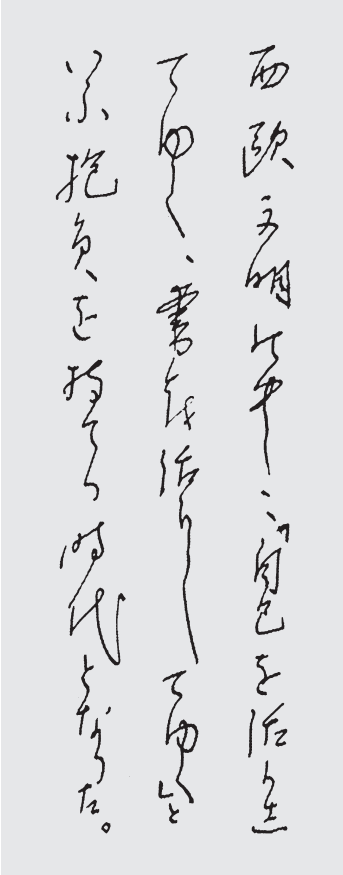
小学四年規定　　山口啓山先生書

小学一年規定　　寺尾碩雲先生書

小学二年規定　　小渕石峯先生書

硬筆規定

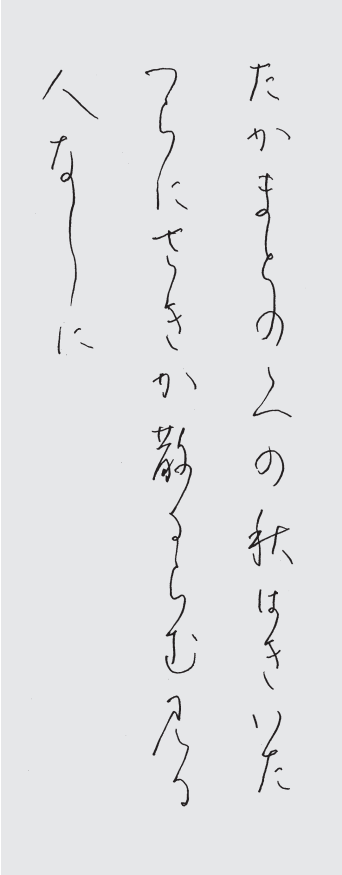
一般規定（師範・準師範・段位）



西歐文明の（能）中に（こ）「自己を活か（可）し（志）てゆく、書を（越）活か（可）してゆく」といふ抱負を持てる時代となった。

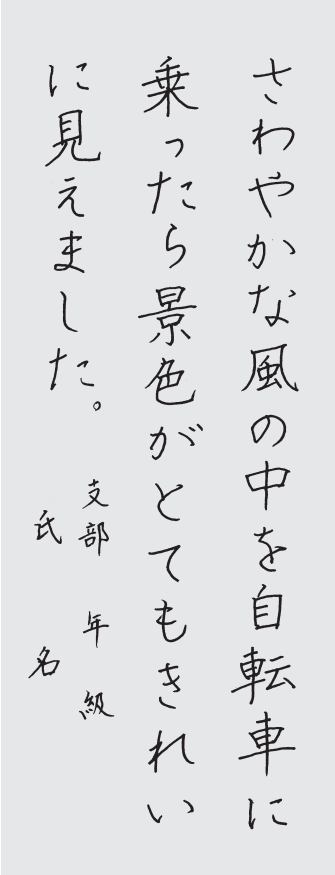
上條信山先生書

一般規定（級位）（万葉集　巻第二　作者不詳）内藤望山先生書



たかまとの　この秋はきいた
てらにさきか　散るもむ　ろ
人なしに

中学規定



さわやかな風の中を自転車に
乗ったら景色がとてもきれい
に見えました。

支部　年　級
氏　名

二瓶嶽風先生書

小・中学生随意課題

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。出品券を貼付して下さい。

小学一・二年	石
小学三・四年	紙
小学五・六年	生地
中学	技術

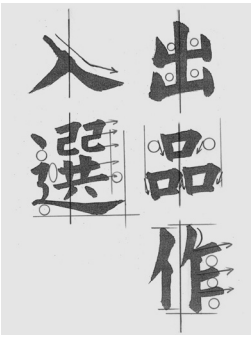
手本解説

・基本「日月不常處」は左図参照。

・硬筆一般規定（師範・準師範・段位）「書を（越）活か（可）し」は左図参照。

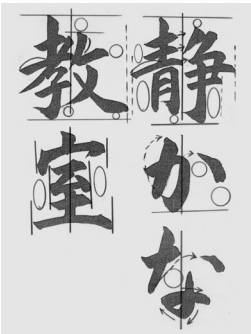
・仮名条幅随意「ごとに」「昔の」「ゆるか（可）も」は左図参照。

学生部規定



中学二・三年

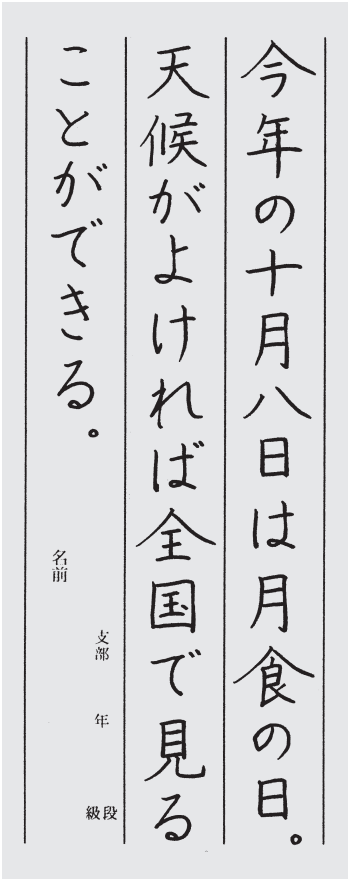
「出」は縦長に書き、一画目の始筆は強く。「品」は三つの部分の調和を図る。「作」は偏と旁の大きさの違いに注意する。「入」の一画目は短め。二画目長く。「選」は辶に巽をしっかり乗せる。



中学一年

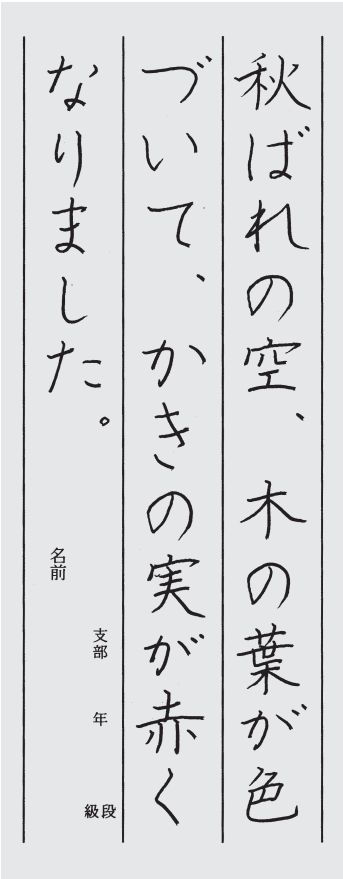
「静」は偏と旁の調和、旁がやや下がる。「教」は偏と旁の高さが異なる。孝の右端はそろえる。「室」は冠と至の中心をそろえ、うまく組み合わせる。

小学五・六年規定



大島皎山先生書

小学三・四年規定



露崎玄峯先生書

小学一・二年規定

関香風先生書

※出品券を貼付して下さい。

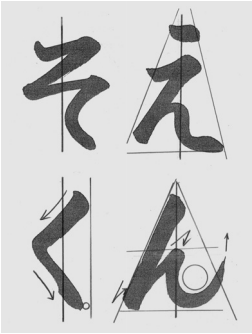
一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用のこと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。作品の大きさ→たて18㎝よこ7㎝　小一・二課題→2.1㎝のマス目の紙を使用する。小三・四・五・六課題→2.1㎝巾の罫線を引く。

小学六年

「研」の偏と旁の横幅は同じ位に書き、高さは旁の方を縦長に。「究」は冠部と九の組み合わせをつり合いよく。「発」はかさの広がりに気をつけ、六・七画の横画はかさの中に入るように書く。

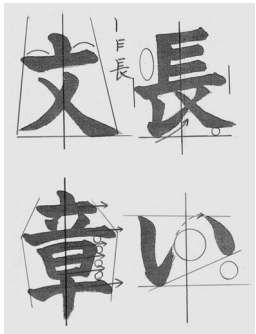
小学四年

「金」は上部の左右の払いを長めに。横画の長短に注意。「魚」は田が大きくなり過ぎないよう。下の点も向き大きさに注意。「ち」の二画目の縦画はふくらみを。



小学二年

「え」は一画目の点を中心に下が広がる。「ん」は斜画の中ほどで折り返し次の空間を広く。「そ」は終画の位置と曲がり具合に注意。「く」の終筆は始筆の位置よりも右に出ないように書く。



小学五年

「長」の五画目は長く。六画目の払いはすくうように長めに。「文」は左右払いの長さをほぼ同じに。「章」は一画目と終画が中心となる対称的な字形に。

小学三年

「う」は中心線を生かして縦長の字形に。「ろ」の斜画はできるだけのびのびと。「こ」の一・二画目ともほぼ同じ長さに。「雲」は冠を幅広く、云は小さめに。

小学一年

「あ」は二画目が字形を整える柱、始筆・終筆が中心線上にくるように書く。「き」の三画目は中心線上から斜め右下へ。四画目はまるみを持たせて右下へ。

古典研究シリーズ ㊱

張猛龍碑（碑陰）

北魏　正光三年（五二二）

今月のテーマ

写実的臨書

大字（二字）

書き方

①文字数を間違えないで出品して下さい。
②続き文字で書いて下さい。
③落款を入れて下さい。
④作品の表左下に、支部名と氏名又は号を鉛筆で記入して下さい。
そして古典研究の出品券を貼付して下さい。（編集部）

〈釈文〉郡中正・爰孝伯・中正・顔文（遠）。

◆解説

魯郡の太守であった張猛龍の頌徳碑で、生前に建てられたものである。碑陰は十二列あって建碑関係者の官位・氏名などが列記されている。この碑陰は信山書法の原点といわれ、信山先生による条幅六幅の臨書作品が書壇初出品作の日満支親善書道展最高賞に輝いたのである。

この碑陰については書象会発刊の「上條信山臨書集」の特別篇98頁に掲載されているのでお持ちの方は参照してください。

上條信山先生臨書

松本市美術館便り

上條信山記念展示室　平成二十六年九月二日(火)～平成二十七年一月四日(日)

拓本で巡る松本平の上條信山揮毫碑

松本平には、松本城をはじめ、公園やお寺、学校ほか公共施設など、上條信山先生が揮毫された碑が多く残されています。今期は、その拓本を一堂に展示して石碑をご紹介します。

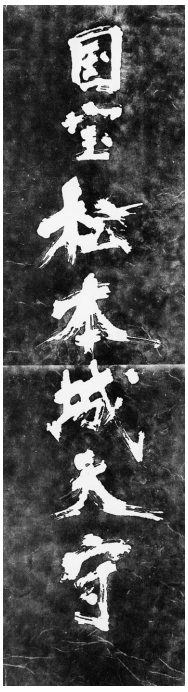
浮き出る文字や墨の風合いが味わい深い拓本。一方、実物の碑には、自然と書の力が一体となった趣があります。この過ごしやすい季節、現地へ出かけて風情を楽しんでみてはいかがでしょうか。

上條信山記念展示室展示作品

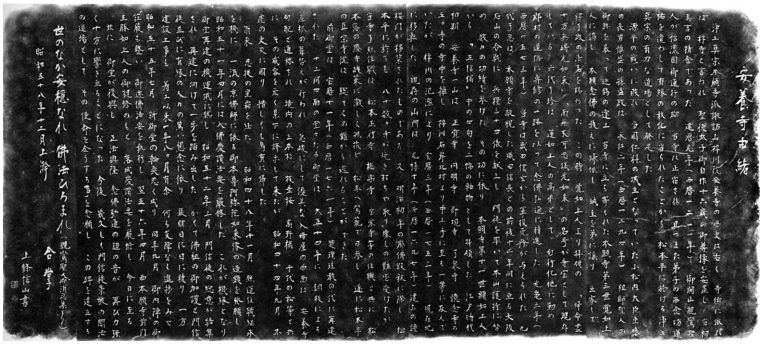
No.	作品名	建立年	建立場所	拓本寸法（cm）
1	塩尻東小学校 開校百周年記念碑	昭和48年（1973）	塩尻市立塩尻東小学校 塩尻市塩尻町	158.3×48.7
2	敬老之碑	昭和54年（1979）	アルプス公園 松本市蟻ヶ崎	270.7×85.8
3	渡辺虎松信徧顕彰碑	昭和55年（1980）	真光寺 松本市梓川上野	210.5×125.8
4	梓水農魂碑	昭和55年（1980）	長野県梓川高等学校 松本市波田	156.0×52.9
5	窪田空穂生誕之地碑	昭和56年（1981）	窪田空穂記念館 松本市和田	120.5×33.1
6	「信濃なる…」万葉歌碑	昭和57年（1982）	松本市立菅野中学校 松本市笹賀	177.2×158.0
7	安養寺由緒碑	昭和58年（1983）	安養寺 松本市波田	124.6×281.8
8	創造碑	昭和63年（1988）	長野県松本工業高等学校 松本市筑摩	44.3×76.1
9	朝日村開村百年記念碑	平成元年（1989）	朝日村中央公民館 東筑摩郡朝日村古見	219.8×81.9
10	国宝松本城天守碑	平成5年（1993）	松本城公園 松本市丸の内	281.7×78.2
11	清流碑	平成6年（1994）	松本市神林川西	72.7×121.0
12	望郷碑	平成8年（1996）	松本市神林公民館 松本市神林	86.5×163.3

清流碑

敬老之碑



国宝松本城天守



安養寺由緒碑

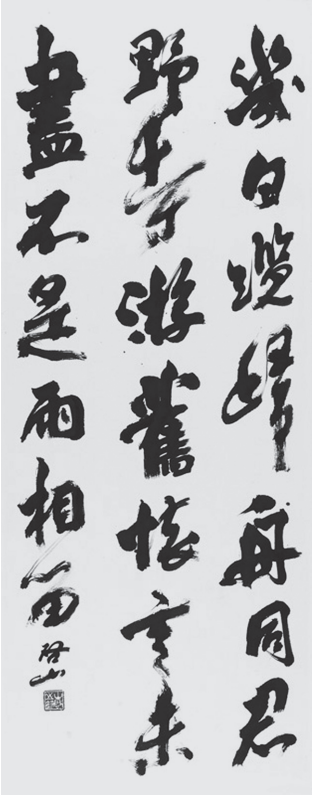
第31回 読売書法展

―本格の輝き―

東京展実行委員長代行　本年度審査員　市澤静山

東京展副実行委員長　内藤望山

東京展実行委員長　審査進行・特別賞選考委員　田中節山

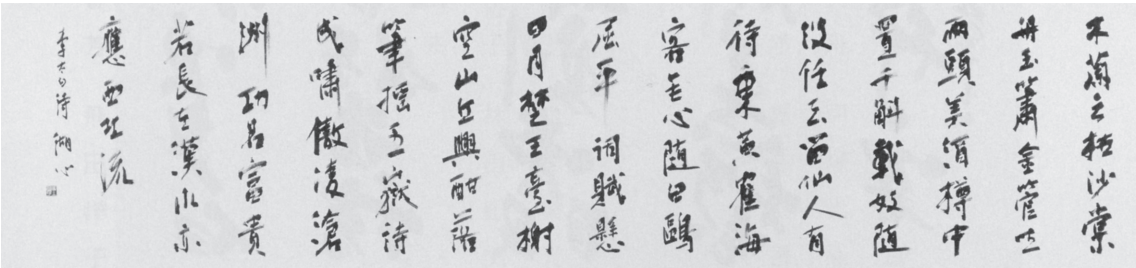


理事　本年度審査員

山口啓山

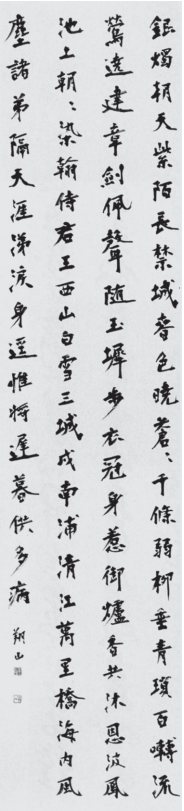
理事　本年度審査員

柳澤玄嶽

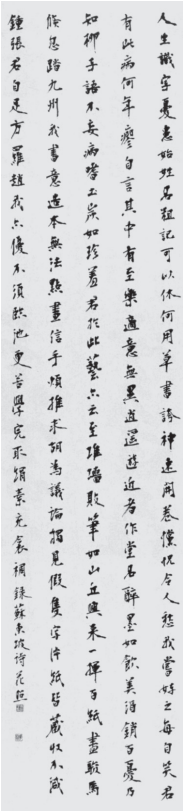


読売新聞社賞

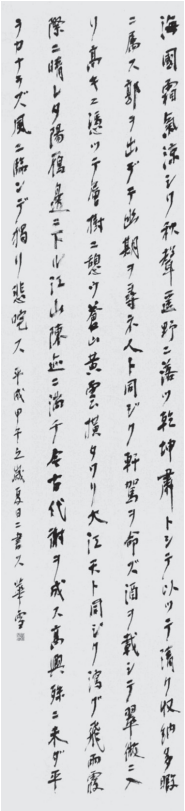
池上湖心



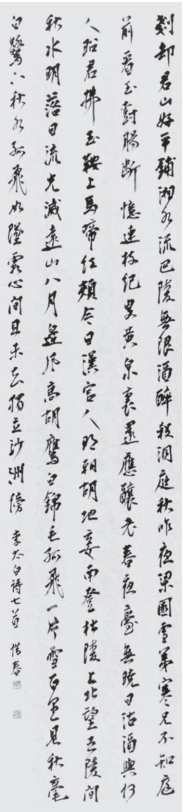
読売俊英賞　今井翔山



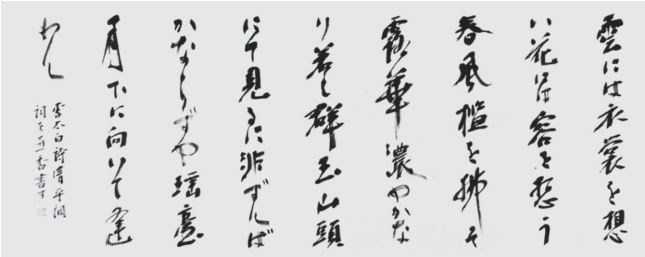
読売俊英賞　鈴木花照



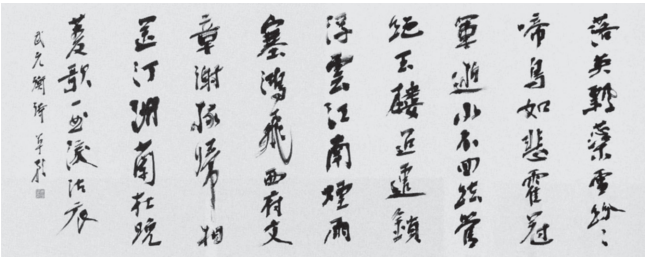
読売俊英賞　渡辺華雪



読売奨励賞　山崎惜春



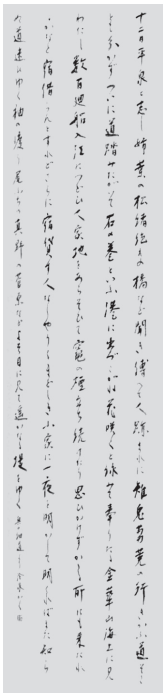
読売奨励賞　上條恵香



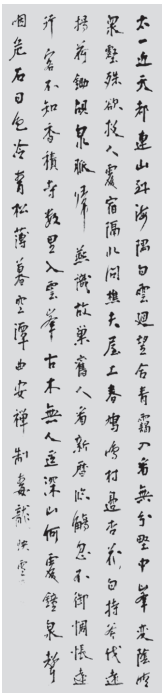
読売奨励賞　鈴木草影

読売奨励賞　関澤劒山

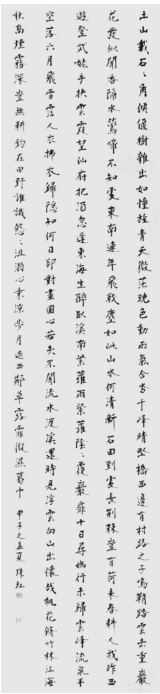
特選　佐藤京香



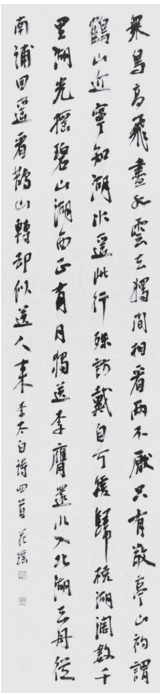
特選　岡野泠泉



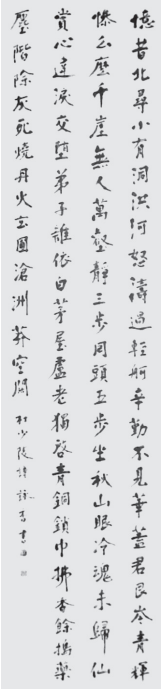
特選　川島映雪



特選　北井珠紅

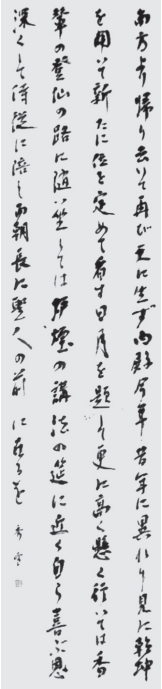


特選　塚原花瑶

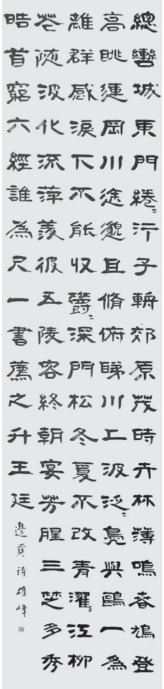


秀逸　一久詠香

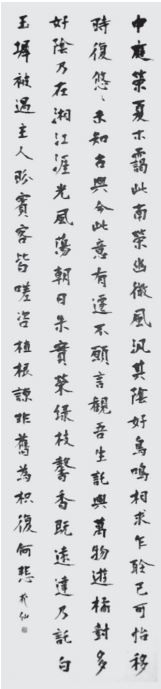
秀逸　来司信博



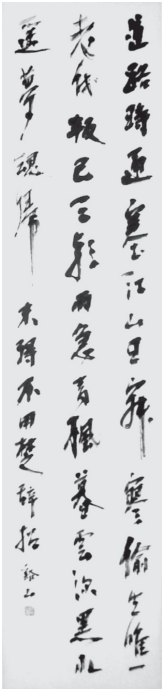
秀逸　桑島秀雪



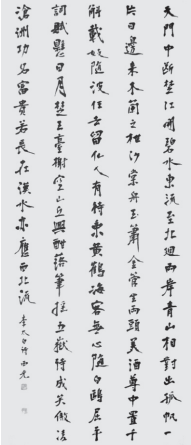
秀逸　桑名雄峰



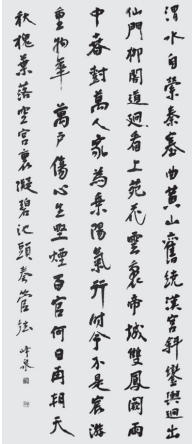
秀逸　鈴木花仙



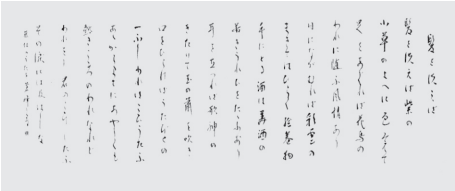
秀逸　竹本谿山



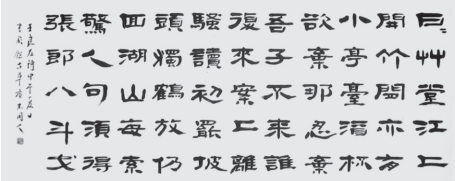
秀逸　伊藤西光



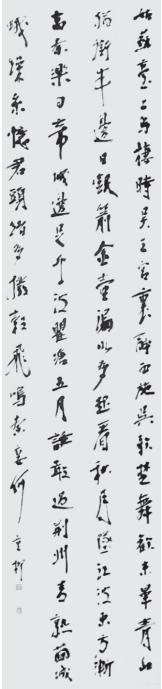
秀逸　牛丸峰泉



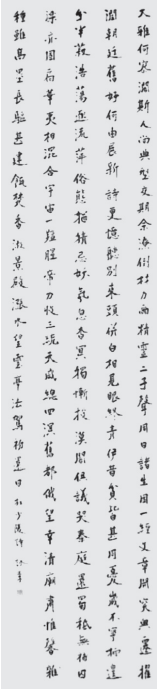
秀逸　佐久間　蒼　峰



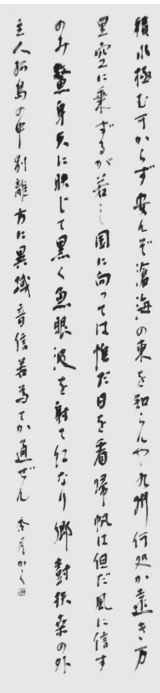
秀逸　酒　井　不　同



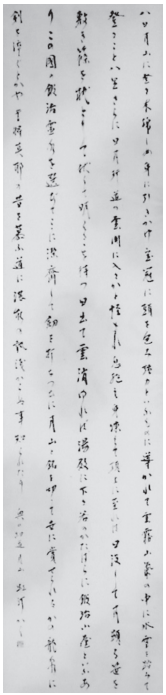
秀逸　富　田　童　柳



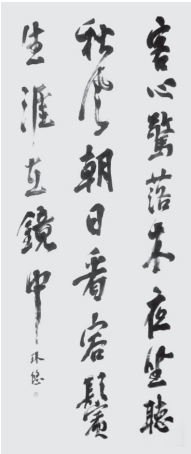
秀逸　長　田　詠　李



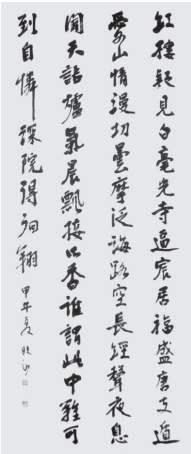
秀逸　中　山　香　月



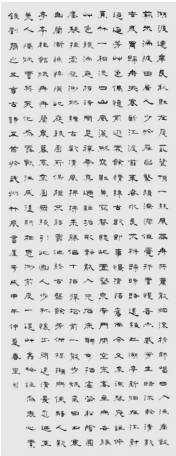
秀逸　野　口　虹　汀



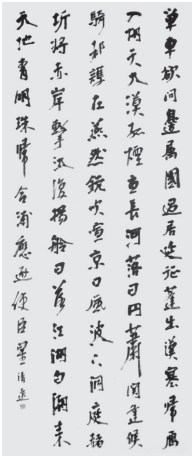
秀逸　久保田　珠　悠



秀逸　塚　本　皎　沙

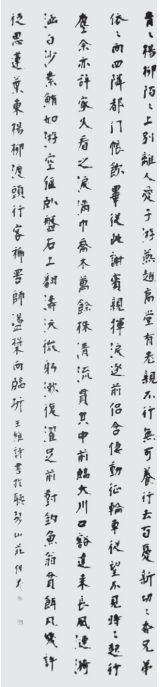


秀逸　中堤春里

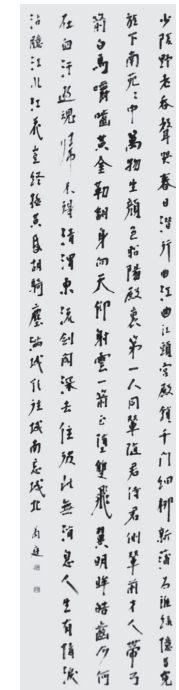


秀逸　濱野清遠

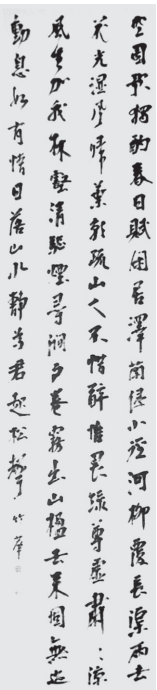
秀逸　平川華凜



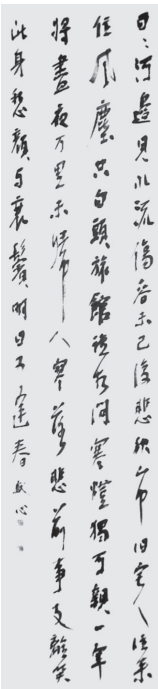
秀逸　藤井憬花



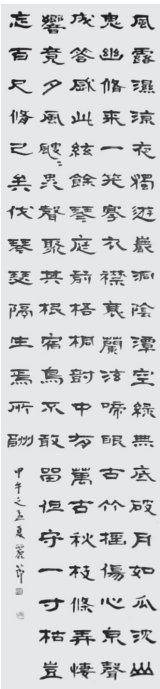
秀逸　牧野蘭庭



秀逸　松元竹華



秀逸　美斉津嶽心



秀逸　茂木麗節

張家の皆様をお迎えして

上條節夫

七月二七日（日）の午後、張瑞嫻さん御一家が西多摩霊園の父の墓にお参り下さるという知らせを受けました。たいへん有難いことで、姉と弟の三人でお迎えしました。張廉卿先生の第四世孫女にあたる張瑞嫻さん御夫妻と、御次男紹凡御夫妻、その長子駿一君の五人が中国から来て下さいました。

宮島詠士先生の御孫さんである吉亮様御夫妻も馳せ参じて下さいました。読売書法展審査のさなかの為書象会幹部の先生方は残念ながら出席いただけませんでしたが、魚住卿山先生、虎井暁鐘先生に急遽御出席をお願いし、思いがけなく父への供養ができ、心から感謝しております。

日中関係必ずしも快晴と云えない昨今ですが、私達の祖先が書を通じて結んだ絆は政情にゆらぐことなく、末永く受け継いでいってほしいと心から願いました。

※「張瑞嫻さんのこと」は平成25年8月号をご参照ください。

信山先生の墓前にて　張紹凡氏の献辞

上條信山先生の墓前への献辞

二〇一四年七月二七日
上條信山先生の忠実な弟子　張紹凡　拝

敬愛する上條信山先生　―　私の恩師！

本日、私達はついに長年の願いであった、先生が永眠される西多摩霊園に参拝できました。飛行機ではたった五時間の距離でしたが、ここまで来るのに十七年もの年月がかかってしまいました。先生はかってこうおっしゃっていました。「書道に縁のある人間は、みな中国という国に特別な感情をもっているものだ」と。先生は中国への思い最も深く、最大の貢献をされた方です。二十数回も訪中団を引き連れ中国を訪れ、中国の各地の山水に足跡を残し、先生の恩師である宮島詠士の故事と張廉卿の真蹟を尋ね求めておられました。そして、張廉卿が、かつて教鞭をとった保定蓮池書院と、廉卿の故郷には、二度も出資を決断して記念碑と記念陵園を完成させました。それは中日友好と中日文化交流史上の輝かしい偉大な功績でした。

先生は「水を飲むときには井戸を掘った人を忘れない」という崇高な人格で、中日両国の代々の書人にその感激を表わされました。私は張廉卿の第五代の孫として、幸いにも先生の保証のもと、念願の東京留学が実現し、また、先生の最後の入室の弟子ともいえる破格の待遇をいただきました。書象誌一九九四年六月号の巻頭には先生とお会いした写真が掲載され、巻頭言には「…紹凡君が本会に加入することになった。これは大変なことで、我々の使命である。紹凡君の到来は、書象会に新しい活気をもたらし、更には日中書道史上の大事件でもある。」と書いていただきました。

二年間、先生と貞子夫人、ご家族の皆様には至れり尽くせりのご親切とご配慮を賜りました。書象会の諸先生、田中節山先生、内藤望山先生、市澤静山先生、虎井暁鐘先生、魚住卿山先生には真心こもった入念なご指導をいただき、私の書道作品を第三十三・三十四回書象展に出品することができました。そればかりか、幸いにも一九九五年東京銀座東急ホテルでの上條信山先生米寿記念パーティにも参加することができました。まさに各界各層の著名人、一流の賢人が集う厳かで盛大な場面でした。そこでは上條先生の日本書壇での地位と影響の大きさを目の当たりにすることができました。その際にいただいた『上條信山作品集』は私の宝物であり、子孫に伝える家宝です。

中略

茲に私と母親の張瑞嫻と共同で執筆した『華瀛翰墨縁』一冊を謹んで墓前に捧げます。先生には黄泉の国で悦んでいただけると幸いです。

※張紹凡氏中国語の文章を川野純一氏の日本語訳で掲載いたしました。

速報！第四十六回全国学生書道展

信山先生記念賞

松須 井賀 佑望 茉美

日本書道芸術協会大賞

田山坪武藤宋佐山森林折勝
所田　井澤　藤本田　笠又
あ　の　か
す純小恭ど毓知美彩お琴瑞
か寧雪香花佳佳伽香る羽稀

日本書道芸術協会準大賞

杉平成廣脇北磯阿庄今濱安池八高鎌田田宮池山青生服藤三
山田瀬田田川崎部司井田齋上子津田村川崎ノ田木田部島浦
ち　明あ　あ　啓真安　上　茉有実
ひ達日か彩深や七り優万優恵太衣紗奎美花果海有奈貴奈英
ろ哉花り響雅み美ん花青希美郎子香悟祐菜歩斗香美子子樹

推薦書象賞

池川石小
島口川島
千璃秀基
晃子萬史

大徳山高関齋緑森風山末五熊市佐安小小吉松小丸室酒上加泉染大酒宮猪堀後田奥江斉田太佐佐永川和村平中望三真岩宮長大
野永本橋上藤川　澤岸田十谷川藤原山松池田林澪屋井原藤　谷和井　俣井藤中出原藤中古藤藤妻口田上田村月輪田田﨑井木
里　嵐万　穂さ　田　さ　あ　里水麻　な
花千聖由京優香航柊広椋夏里結彩莉綾美和杏輝彩如秀彩乃ら紀望一陽く　け玲未菜亜寛夏　佳輝里祐朝咲智優美真　つ彩
子聖奈稀花奈月汰輝祐子実子衣奈夏乃優生華明夏人翔香香ら織美真彦ら睦み華来実美菜希冴明子子菜香香愛世奈優依舞き歌

特選

川永藤生小中大池渡平五川小有寺柏
口妻島田林垣森上会井十口出泉井木
水里実茉　内　ひ　嵐菜
輝佳奈奈莉萌あ恵い里千々瑞咲　力
子子子美奈恵み美ろ咲尋香季希愛哉

中青菊中岸小茂宮吉松千土立榎宮百川花伊佐高佐冨萩辺井樽小新大臼半園豊平芳吉
村木地山本川木本井村葉屋川本田瀬原岡藤藤橋藤岡原見上井林屋石井田　田田野池
あ　こ　麻
あ琴ら七帆　真真理へ月璃里衣瑞ま　愛璃千夏優愛未紀万駿千沙愛朋菜真芽早　愛
い美れ星花晏子優紗い美乃紗花季ゆ遼梨音尋樹太香結香結典鶴羅理哉穂知衣穂葵来

水馬鈴江又森東横大榎馬山三勝谷宮山福金中岡菊滝南蟻中大平安安宋櫻玉伊島土恩宮八小鈴小小小金米大飯阿平張舘小森大
谷塲木田場本　川塔谷塲下角又　崎下田子山本名沢澤塚村國田原齋　井置庭根井田田木出木林倉川井川木田部野　栗　木
百　なあ悠　奈　あ　あ　日　佐　ひ　日　み
百美隆合　達優裕つや花侑洋涼涼花双優津い弥瑞千美来聖真早莉優毓佑美朱加や　愛ゆ沙有向萌恵弥佳愛仁か透　奈夕な彩
音佳司奈匠也花太きか里華子介奈菜葉菜希な子月紘優実奈麻穂夏希佳香穂音帆な楓来み希加子々美菜那依美る那敏子依み歌

菊林宮翠湯望真平窪永新森日宮柳高武冨宮竹井豊関渡岸加小安藤池平耀森出矢駒宮加清青青横伊萩大久川加穴山須虻芝高松
地　下川本月野田田沼井﨑野本澤橋藏岡澤村副田根部本藤川田平田　口吹津川藤水柳木山藤原野志瀬藤原末長川元橋丸
絵　み　穂　岡　結　佐百み　ち　さ　愛
莉航奈愛香な楓志琴乃沙徳真美直爽優恵大拓太萌　彩優結衣美華知合な七　大奏那麻佑桃愛彩　真智陽希義ひ麻梨や眞里
香平穂実穂み華織乃香綾馬緒那斗太希里樹翔一恵萌和奈花珠名月音子香み緒響翔汰菜央奈子樹乃楓桜子大保弘ろ由子香実奈

吉北松甲北南木花島高荒山山吉市鎌竹小大酒大二郡今北龍井坂白大時坂吉関星荻高茂粟前岩岩中山文清遠八西山高高蛭諏渡
川村本　村　村田根岡木科崎田川田川柳河井坪ッ司井澤野出　石野田　田口野原草木戸原居田川本野水藤橋田縣須須川訪邉
玲　真　久　鷹　原　寺　菜　こ　木　里　咲
里衣優梨理里里海咲彩瑠敦優次桃麗茉水雄萌千望咲　菜々七俊結悠杏俊な鈴智美麗悠一春彩志未花未栄美瑛媛将亮大愛彩
咲奈奈奈奈沙代玖菜音美稔衣郎子加那希友依紗美紀聖摘子夕哉衣紗美哉っ菜美沙凪里成佳子穂央果桜香帆子香英太知夕奈琳

小廣越梅樋永鎌桑臼青宍髙山笹丸小佐小黒八大宮内小小藤石西坂平竹土赤内芦和二金松貫高五五渡川鎌荒櫻齊飯齋上青高芳
林瀬路津口井田原井木戸野下川山林藤林木木住田田山川澤井本本澤村屋堀田川田片子浦井橋藤来會田田木井郷嶋藤野木橋賀
あ　美　恵彩　ゆ　こ　く　た　咲光
花俊す乃佳央穏奈早美千優一理理輝李琉花玲映真ず優冴と董莉陽　聖智景る桃彩く愛知美未耀　乃　拓美萌風惇里優弥太
織哉か愛南花美津紀璃夏花葉佳愛明南月音奈子緒は芽京葉花央平萌愛紀澄み乃香み弥沙希恵子誠然以律海咲衣子人恩香歌郎

金賞

大濱和大中山平川
木田多島村本塚口
田　野み　ひ　と　可　み　ひ　川
詩千桃千芹朋想瑠　美麻　な優由佳創宥瑠優美遥愛な華も龍美瑞秀奈颯莉美奎千沙実紗野郁彩の郁優悠末司康よ楓舞　一碩沙悠の
音帆子佳香佳汰実　舞咲華豪み香乃奈生佳奈奈優香美た瑠か星羽穂享英音奈稀音咲弥希恵乃哉夏り南夏平裕貴一り子香廉樹政和太ん

館野伊土平宮西前阿坂黄二中下中江山箭大宮宮太齋熊山高白片中山上河矢迫丸浜鈴先軍須山田竹長上滝忍神田加
澤町藤肥居本　沢部口海木野條沢端口内賀下川田藤宮下橋浜岡島一原合敷　山田木﨑司藤下中村谷川沢足崎中藤あ

渡棚伊山髙鳴矢松天林小長高宮吉岡林松有横小新関清阿金長長齊齊福滝竹伊村古鈴田太粟柳森川高小湯松高高平川上八岩山真城古阿和
邊澤藤村津原部森田　室澤橋田澤部　本川山島井口水部子島島藤藤田田田藤松賀木渕田戸田尾上橋林下本橋橋塚口田橋橋本嶋田賀部多
真　陽　恵　美　こ　明み　英　田
琉飛真実衣日愛千芽哀真奈智歩侑理哀知里愛千愛鈴舞有由沙京　眞莉理　美圭と竜結春日な祥真有亜直花一智雄彩理里夏萌真大杏真
良鳥緒和子奈優裕吹里琴子聖美里佐里枝子莉香望菜香香衣貴香光夢美乃桜光來悟は汰斗香香み吾人衣未之鈴織希大乃子鈴実乃央雅生子

田守岡鈴弓北南横谷東鈴浅藤石岩小城木古東関岩東福栗大南谷中前岩渡渡北坂北荒藤大林西塩井島工髙荻柳坂渡武棚大赤田西星福飯大
村屋　木削川　山　岡木野原谷瀬笠戸村賀岡　田岡田原石　本野村瀬辺村本村木木坪　岡入出田藤橋原澤口邉田澤谷坂野浦野本田木
千　な原　愛　菜　千
千心大　理雅賢　美胡　揺慧優な　颯朱仁香秀迪達兼菜朱鈴遥美晴芽ゆ鈴望桜瑠巴美優友結瑛一　恵伶　美更や翔ま桃成菜百結彩怜琉
怜乃樹謡子楓成萌葉桃恋子成依み董太里將純隆也哉也摘里英華咲香依め衣実子奈那空斗那衣美陽海実奈咲樹遠か弥と菜花美香良乃奈愛

牛楢小小嶋鈴森山清西佐佐八袴細君小稲土橋岩鈴佐会安白加武斑佐佐杉金髙井品小小本中高森山満中手堀青菱丸我安宇酒川伊上多杉村
島崎間間野木下崎水　々藤谷塚谷島松葉橋本本木久田藤石藤藤目藤久本子橋上川俣林橋原野島内田村塚金木田山妻慶津井端東條賀尾松
木　つ　菜　間　間　十　美　名木　聡
野
春帆大友杏里弘滉萌結乃真虹智海ぐ愛絢愛　々二　汐　杏涼凜沙宥樹千美佳湧望大怜　優耕菜咲優心怜　圭颯由莉花明美真輝結一七
風夏輝太咲依裕也々香華人輝也羽み莉子來杏穂瑚桃里楓萌佳馬花耶輔哉夏優保登朗悟奈岳奈大摘紀月結花遥一野崇桜保莉月緒太花朗美

赤大百小小小廣江渋泉花小樋志鮎山小笠伊井磯五栗榎恒宮石松村小本斉金本岩江工山近髙萩鎌金平村花玉原佐竹竹赤原長松佐山矢白鈴
坂村瀬久久林谷刺谷谷岡林口渡澤下内原藤手井十原　吉川橋原松林多藤子多﨑野藤口藤橋野田子野中野井　藤村村羽　谷本久畑野澤木
保保　真家　田　嵐　さ　澤　龍　麻　川　田　こ
優佳瑛爽小胡結玲和路茉陽貴美皓優美千智美優美郁の櫻美絢一朝千希和く玲妃由美大里　未桃ノ綾理　大優知柑桜璃優勇悠尊愛と麻健
維乃太花梅桃子輝史清奈夏乙紅子起優夏菜里花紅人え子紅果実日歩歩月ら菜捺愛友輔奈陸夢加介乃緒僚瑚香佳太介香香太生翔菜り佑太

石内鈴野永松鈴淺久塩村小万工寺林本今田土山三宇永安福中木増田吉堀楠藤村市金鷺長内用石前村岸飯坂根鈴小中宮加川上田片清高小
井藤木々井浦木松徳見田西井藤田　城井中田田﨑田柄土井村村井中田川本城井川子谷濱田正井田井　村本岸木池野本藤俣國中庭沢沢松
村　穂　あ　まみ　絵　孔　満　茉く　亜料
彩美翔康早勇葉愛有乃優ず美璃梨友沙珠萌なず雅帆乙綾和瑠里聖美采花遥彩綾美之彩果小萌里慶龍奈る伶穂遥　凜咲礼　朋優　百
陽董華咲也裕希稀月莉唯香香さ玖仁沙香希嵯音りほ貴花稀花樹美菜那樹加織奈春葉波介花鈴葵衣奈二聖美り奈果都拓音香羅涼香斗穂恵

仲戸小皆清小山小台石石瀬柏菅有松寺尾菅百上脇玉塚田八八大奥丸高石塩浅川花関圓鈴岩岩細齋野西中辰柴川松増久原那永坂木加森板
宗谷林川水山浦山　田田尾木野泉田井野野合杉　井崎村木木谷手口田田谷川北田根道木佐佐貝藤村森平己田上本井島田須嶋野村藤本谷
根　恵　田　ゆ　田　ゆ　し　明　夕　美　彩
涼　里美未和愛み　結颯勇　俊京　莉　清桃遥杏希綾悠彩郁璃莉め　華の貫梨莉朱紗琉夏愛日元祐　元太和花美代　弥清世咲優浩篤
茜花楓佳伶怜喜乃子拓莉太人晄希佳翔有楓仁子華実飛祐圭圭美子未の愛怜ぶ太湖子音英雅妃夏翔輝太光基司洋里々子圭香音奈子奈輔志

芦戸西大會飯稲岡鈴伊岩川土山永川生山長永川大生藤川大生土横吉藤柏丸塩大乗佐新平羽平池工羽平平羽菊柳藤後柳西小坂西十和尾田
原田田野沢島福本木藤下口屋田妻口田﨑島妻口木田島口木田屋山原澤木山川谷附藤津野山野上藤山野野山地下原藤下野幡田野郎賀美中
萌　え　　水　　里水茉ほ　里水　茉実水　茉　　ひ　　あ征　昴　　井
々舞り夏佳知彩有里菜怜輝佳有佳輝奈な　佳輝彩奈奈輝彩奈歩里歩厚よ　夕　沙美　穂夏瑳恵麗知穂瑳夏ら二悠雅太　哲　　光美心
子佳佳奈子代花珠佳那菜子奈香子子美み歩子子歌美子子歌美叶奈花洋り覚奈愛那槻円怜生織美加希怜織生れ郎星登郎星央悠月希琶絆葵

菊石高管佐峯高三田松元松原松江笹根小吉郡小小奥池馬菅後小川田杉佐神大伊森服萩中十鈴佐佐山阿田佐福矢東工髙鈴熊早秋岡澤齋最
池塚橋　藤村木室中村木田　丸原原本峰田家野川積之鳥原藤竹尻中山藤田栗地　部原山川木藤藤口部口野原吹峰藤島木井﨑山﨑畑藤上
　　真　友星季　　ひ　　の　あ　上　萌　　知　沙　　愛
海美　里綾梨莉緒藍遥優美び葉　　莉悠え令す瑞由真優々麗　絢　文真凪亜愛夏耶佑瑛美唯里泰美千晃初　彩奈寧　新結文百華麻由花
衣咲茜奈花子奈梨海香花帆き月舞愛甫希る菜か希香帆希乃海桃音凪美美沙惟菜美香香絵祈子佳葉穂聖代音茜奈柚子雅菜衣香花歩美佳連

高太太原茂山齋原山山日余山鈴高茂永松杉佐星関小森名帯亀真宮堀萩青磯池茅神佐田小菊小矢駒松江中村坂長谷村木源小石秋小柿矢鈴
橋田田澤田本藤澤下下高座下木橋木井井木々野上森本倉包山壁田　尾木﨑口野長藤沼川池倉敷ヶ岡花川澤本谷藤上村嶋島鍋本島木島木
　　あ　　木　　将美　　あ　　ほ　　嶺　　川　　真　　ひ
駿秀秀由　聖百朱莉璃ゆ若莉望大凱里　美友朱　朱真由太代美千涼朋優や優史弘公朱の幸尚郁　実威　美百　美花優結　実響彩か奈千
汰弥享展萌奈花音奈紗み菜奈翔地聖奈皇穂梨蘭立里央翔郎子乃花介香実み菜怜行紀理か乃子哉凛怜琉優輝合舞咲織里子望咲子奈る帆奈

伊西小松青森瀬染田太増福斉米大賀村森森山青河李藤村木望石粟塩笹赤木五青橋桑中津桑庄平白佐舘嶋宿郭平荻木池大佐宮木簀宮高徳
東島林本木川戸谷中田山山木川原茂田本田田山原　芳田内月田野谷井澤村十木詰原宮端原田野井生澤﨑谷　尾　村辺澤藤坂藤河下橋永
　　優　井　　芙　　智み　　奈　　香　嵐　　あ　　み　　原　さ
伶　冴彩愛寛つか和日弥和実祐侑愛那奈す美爽美未菜佳朝　綾雛　咲千名元千穂太実桃か広早美美美　　優嘉夏咲早ず更　直南美渓く栞
花匠佳見乃斗さ奏菜悠真那菜甫央月美き紀太捺夢子乃陽瞳乃子慧希寿子紀夏香河世果り宝希愛咲空穂遥花宏鈴野希き奈夏希海夢香ら名

西佐渡梶宋安渡高南大林髙篠高河佐滝中安中平宋安村永安し大飯大丹岡荻伊古山小笹鈴海田田山茂深谷原黒吉内内内寺黒井冨秋立渡伊
澤藤邉原　齋邊梨澤橋　橋田木本久沢村原村田　齋田井田ん澤沼堀生本野藤関田林川木瀬畑畑下呂堀口田田橋山田山門澤上田野澤辺東
　　里　　間　　の　　菜　彩　真　優
美綾葉綾毓優未枝美　杏若萌菜純優千聖莉聖早毓優琶佑海す華哉光会紗茉佳優芽万理理晴　　琴和陽心京々優浩水浩祐　智裕裕太裕采
怜子月子佳希来美優蓮奈葉華摘伶衣紘奈夏奈穂佳希香奈陽け月太毅美弥優菜花依桜佳仁登凛凌音奏大音佳子香大香大希櫻子也孝朗里南

辺白白加細安新浜表山茅森深若平羽金藤村鈴森宇山安藤林金鴫野門金宋安中宋安大大及篠蟻庄小中土中阿竹澤芳坂市木今上安高斉斉佐
見戸戸藤田村野名　梨沼本野山山賀子木吉木井喜田田木　巻原口脇澤　原村　齋國野川宮塚子野村井村部内畑野垣橋村國遠原橋藤藤々
　　は　　紗　　田小か　　彩　　野　　木
あ　　徹真る華　昇萌大和春駿尚瑛大沙望心陽恵菜づ亜亮理麻佳菜友毓莉聖毓優真瑠文彩来美詩仁有聖七　美　未麻有真真莉千英雪
い司杏朗央な夏真我恵羽子花仁生海介耶美馨斗子美は耶太央央那緒香佳夏奈佳希麻美香樺実里織美里奈美萌加葵玖弥希優依夏世里菜光

筒田井渡磯鈴和平雪菊竹友板池曽松柴倉東手我坂窪髙林山米市大栁木竹岸梶藤矢久大森島湯鈴伊仲橋内田安小大谷水井緒国石廣大田杉
井丸口邉貝木仁松本地重野橋田根澤田島川塚山口田塩　川田川平澤村田本観江島保塚　田本木藤田　田村田原槻島野田方谷綿石友中本
陽　　ひ　柚杜　絵　　め
太美佳　か心菊和彩莉魁　幸有愛瑠美　朱智彩夏仁莉有夏菜晴真亜ぐ茉希沙　新竜真七彩裕晶尚優遼直嘉佑浩英　美千優浩隼拓瑞優崇
郎羽南琳り彩乃子乃香人葵大沙望璃里遼里恵乃菜夢瑳花美澄菜琳美み生望妃廉大也希海乃介貴也人汰樹仁真平寿彩樹裕人太也海希未真

粟加今草長監鎌江佐関今佐土長山松田間平今河田石熊桑竹松保勝河大伊伊高藤永関杠藤熊朝大咲中佐関笹岩小阿深宮畔北山大青松北重
飯藤野刈谷物田藤藤　野久井門本本窪中松國辺川川澤島澤本坂岡辺場藤藤橋野峰戸　野澤倉堀川島藤戸川村坂部海本上原嵜矢木田原田
原　　川　　間　　ひ　　く　　麻　　な
大夢珠香彩花詩綾真美絵正成佐愛茉晋美天真真緩紘よ花茉奈美花里　美海佳晶夏結る太和　莉　杏昭輝　美早つ芙佳直　悠優琉大　陽
斗叶里奈琶香織花幸南莉伸剛桜叶奈也宇音優由奈音り奈矢緒帆帆奈渚羽寧汰子鈴菜み朗香凜菜凛夏太希悠海希美優奈也匠月奈晟地春香

植長三鈴竹岩皆竹高竹富真横真新宇新宮渡松川中相二櫻黒初梅小檀石宮高藤田脇土三岸高土山高松磯北諏堤佐鶴石井中高白森山加清細
村谷井島内本川内橋内田道田道津田井脇辺下本村馬片井澤山津川上戸原橋尾山田田浦本須田田須村貝條訪　久田田副谷野戸　門藤水矢
　坂　　そ　朱　　あ川　　佐　　莉　　間　　ゆ　凜
萌美陽　和　君の杏花礼りあ　や璃花和咲永以大楽桜夏美瑠忠奈真麻綾　慈沙彩夏萌佳大夏純亮美希果彩友ひな華夏和彩日　い華友々莉
亜那菜遥泉輝菜か花理華みや陸の子佳奏来実子翼々華海音里和穂菜帆美潤恩子愛望楓璃知望寧太徳信乃奈希た音萌貴夏那陸か海花華代

畑多南前吉中清永齋澤田田古嶋内嶋は但橋間伊鈴伊石山
田波田井山水井藤村代口河田野田やし木谷庭藤木藤原梨
　　あ　　航　　奈な　　末　　美
歩秀優晶美か花由陽琴翔太純萌由々な由心来愛舞咲夕華
穂士成子遥ね菜衣奈美吾郎怜子梨子る奈音愛莉花良希奈

入賞入選点数内訳

総出品点数	4841点
信山先生記念賞	2点
日本書道芸術協会大賞	12点
日本書道芸術協会準大賞	26点
推薦書象賞	96点
特選	286点
金賞	933点
銀賞	2370点
銅賞	989点
努力賞	127点

◎団体賞

◦最優秀団体賞

聖徳大学附属女子中学校高等学校

◦優秀団体賞

華雪支部　玄樸会支部　秀明英光高等学校
光ヶ丘支部　守山北高等学校

◦団体賞

天沼中学校　北府支部
丸子修学館高等学校　美菜会支部
名東支部　游墨会支部

◎優秀指導者賞

小室墨汀先生　武原幽節先生　橋本桂雪先生
樋口李華先生　柳澤雪葉先生　渡辺華雪先生

今月の優秀作品

＜隷書条幅＞　評　中村　巍山

泰　仙　大胆な運筆で巧みな筆さばき。老快な作。

琇　光　字間のとり方抜群、瀟洒な作となった。

白　葉　墨含で深みのある作、名前ハッキリと。

琴　月　太めの線で一貫している。雄大な作品。

壷　桜　全体感大佳。練度のある落ち着いた作。

谿　沙　切れのある線で明るくのびやかな作。

恭　影　澄みきった線で秋の爽快さを感じる。

美代子　信山流を会得し骨力あって大佳。

＜仮名条幅随意＞　評　芦川　臨泉

壷　峰　大胆な筆の開閉が魅力的。

照　節　墨色の美しさは群を抜く。

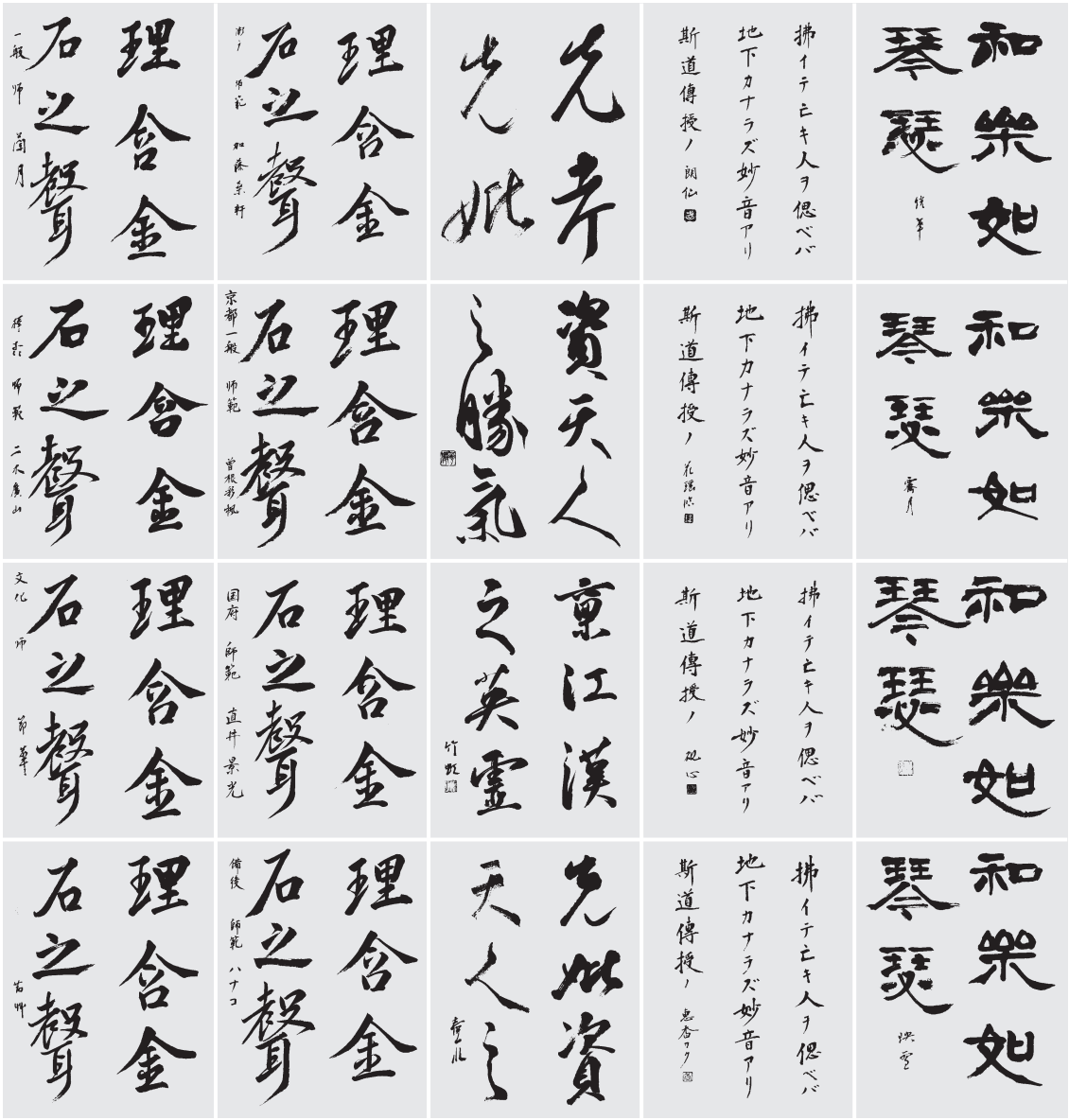
小　楓　余白が涼しげで格調高し。

＜通信条幅＞　評　二瓶　嶽風

増田享月　全体感よくまとめられ、鋭い線で書けた。

竹野翠紗　澄み切った線質で伸びやかに仕上げた。

小谷照春　潤渇の変化が美しい。



基本課題　評　髙瀬　霞山

統　華　完成度の高い作品です。形、余白全て秀。
霽　月　小さめに上品に、甘い線質の中に強さ有。
白　葉　横画の長さが形を伸やかに。躍動感あり。
映　雪　基本に忠実に書かれ余白が美しい。

研究課題　評　露﨑　玄峯

朗　仙　伸びやかな線質よし、全体感も見事。
花　瑶　文字構造が大きく穏やかで落ちついた作。
硯　心　骨力があり、軽快なリズムで仕上げた。
恵　香　紙面にくいこんだ線で雄大にまとめた。

古典研究　評　中村　巍山

小　映　太めの線で豊かさあり。潤渇の対比大佳。
花　仙　豊潤な線で大胆な運筆でまとめた。
竹　虹　豊かな線質で行意があってよい。
壷　水　線質に強さを秘めた表現がみごと。

師範部

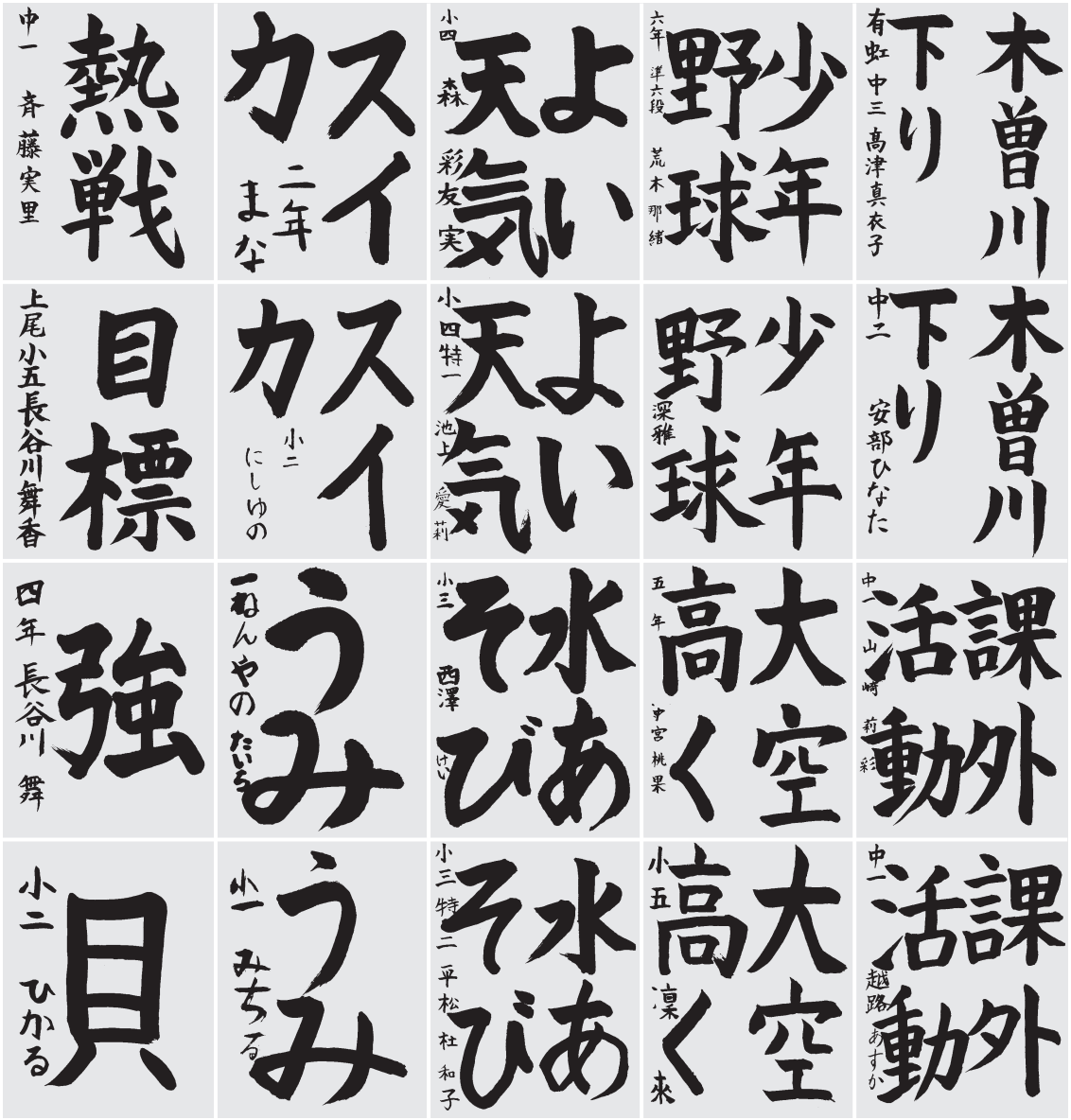
〈行　書〉　評　樋口　玄山

桑　軒　小粒だが鋼を芯に持つ強い線。
彩　楓　大きな腕の動きを感じさせる豊かな線。
景　光　細部まで神経の行き届いた真面目な作。
ハナコ　筆がよく立ち筆圧の強さが印象的。
蘭　月　大胆な含墨はベテランの味。
廣　山　ニジミ、墨色の美しさが抜群。
節　華　軽快さ、自由さ、行書の魅力あり。
茜　艸　潤渇の変化を楽しむ余裕のある作。

湖　亭　スピード感、重厚感、併わせ持ち佳作。
恭　月　行意を見せながらも骨格の確かさあり。
玲　秀　落款の入れ方に錬度の深さを見る。
南　流　一画一画を大切に書く学習態度が良い。
惜　春　終筆の軽やかさは錬度のなせる技。
めぐみ　字間、行間に明るい響きあり。
玄　凜　文字長短の変化を楽しそうに表現した。
真　帆　等圧の安定した太さが良い。

〈仮　名〉　評　竹内　墨洋

翠　山　潤滑を巧みに使い清廉な作品にまとめた。
珠　悠　じっくりと墨を入れながらも軽快さあり。
象　月　沈着な中にも線表現の強弱が見事な作。
紗　虹　周囲の空間が美しく潤滑も効果的である。
静　翠　紙面全体に配置された各行の流れが見事。
節　苑　淡々と無駄な動きがなく忠実にまとめた。
素　州　強靭な線、軽快な渇筆で骨格に強さあり。
淡　愁　空間を美しく響かせた静の表現が見事。
霽　香　太めの線に落ち着きと格調高さを出す。
有　希　線の細太が大胆でスピード感溢れる作。
琴　月　手本に忠実に筆を走らせ品格を醸し出す
笑実子　切れ味のある線が流れをうまく作る。



学生部

評　寺尾　碩雲

真衣子　筆の入れ方がきれいで、隙なく書けた。
ひなた　墨量豊かで力強く書けた。名前もよい。
山崎莉彩　伸び伸びとした線で雄大に書きあげた。
あすか　安定感のある字形でおおらかに書けた。
荒木那緒　落ち着いて、最後までしっかり書けた。
深雅　きれいな線で、さわやかに書けました。
中宮桃果　たくさん墨をつけて堂々と立派です。
凜來　おおらかにしっかり書けました。
森彩友実　おもいっきって、太く上手に書けた。
池上愛莉　上手な筆使い。一画一画ていねいでよい。
西澤けい　全部いい形で、力強く書けている。
杜和子　筆の使い方が上手。きれいに仕上げた。
まな　太くのびやかに気分よく書けている。
にしゆの　本文と名前をとても上手に書いている。
たいち　ふとくて力づよい。すばらしい。
みちる　すなおでじょうず。なまえもがんばれ。

半紙随意

評　江上　玄光

実里　力強く、形よくまとめた秀作。
舞香　ていねいな運筆で、充実した表現の作。
舞　豊かな線で元気よく書けた。形もよい。
ひかる　のびやかに、どうどうとかけました。

このページに掲載された人には書象会より記念の筆をさし上げます。

〔行書〕

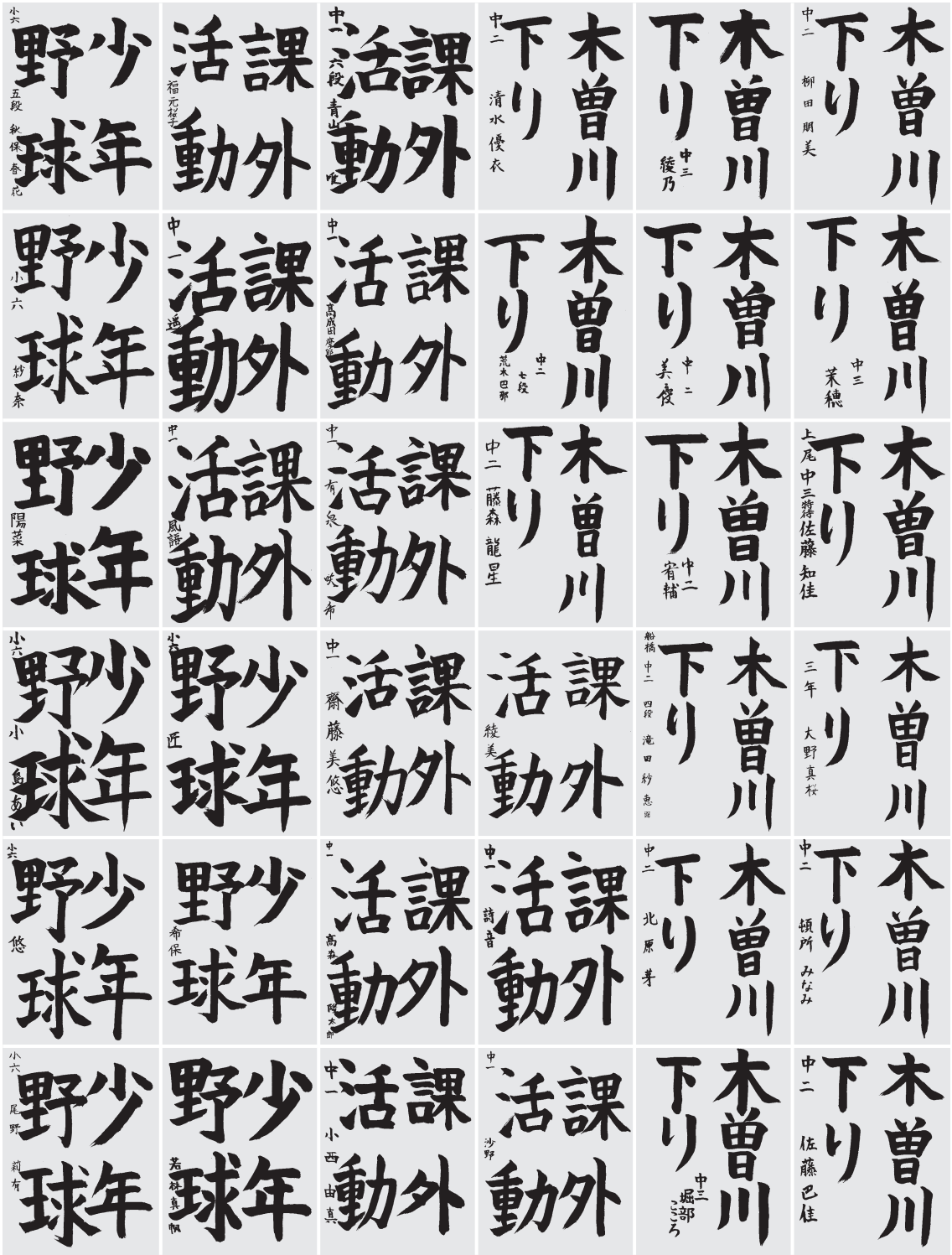
〔段位〕
足羽　吉田久美恵
游墨　由光
東根　春
成城　光
皓花　村山　皓雲
茅野　長島　正純
書泉　香園
横二　花雪
産吉　渡邊　一貴
高風　禎子
有象　友依子
光丘　松本麻奈美
倭　昭子
書集　梅田　正博

〔級位〕
産吉　竹田　玲子
信大　髙広
葉月　修二
優生　大嶋　瞳
小平　澄華
八戸　栄子
柏芳　山口有美子
皓花　西岡　結衣
玄黙　浜名
玄燿　孝次郎

〔仮名〕

〔段位〕
須坂　智祥
大阪　大村　美穂
横二　光雪
相模　松本　正恵
柏心　大谷　真
水代　柴田　礼子
書集　熊田　勇一子
倭　律子

〔級位〕
小平　真知子
一絵　玄記
汀楓　杉本　仁美
長野　美絵



〔毛筆〕

【中二・三】

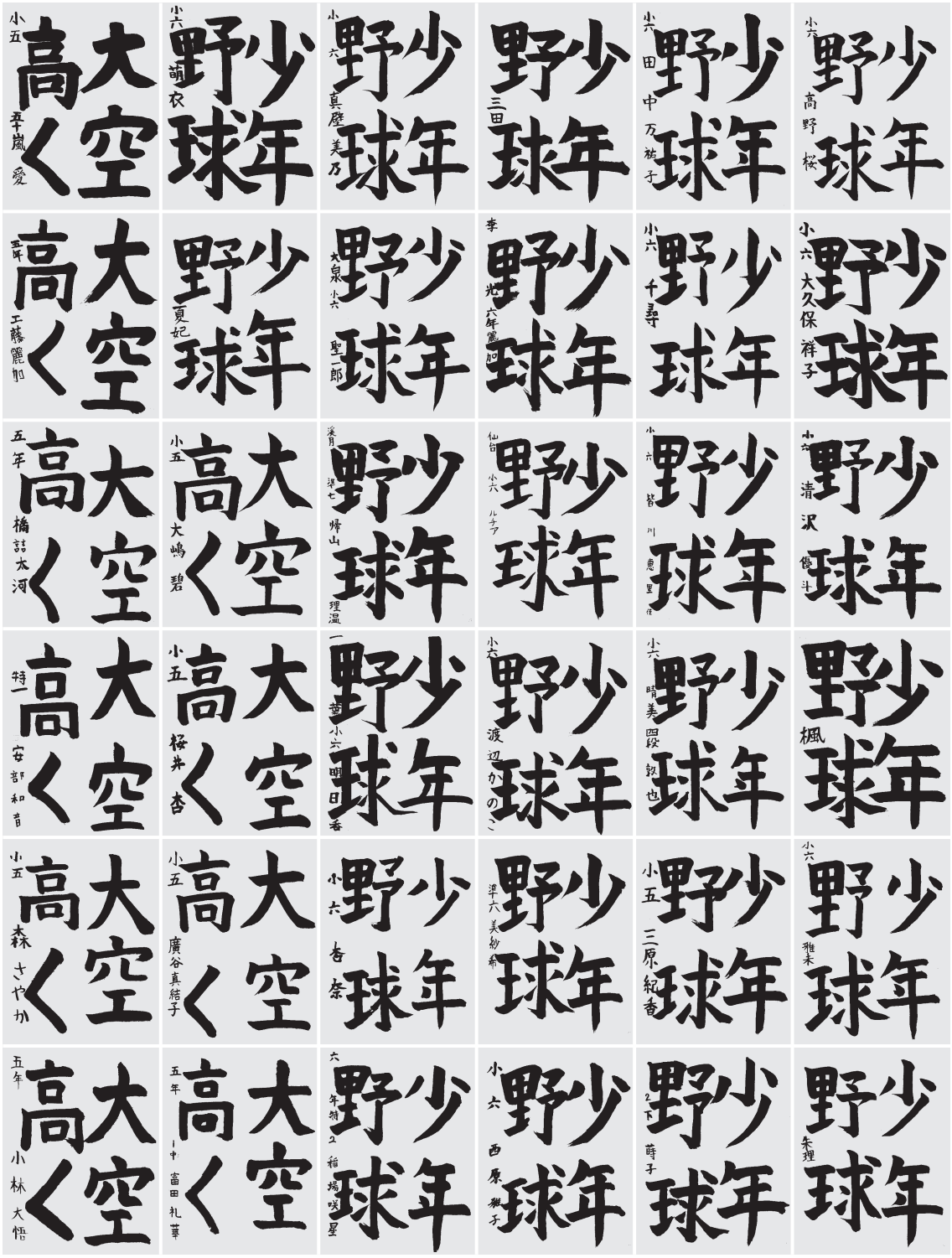
久喜 柳田 朋美
凛心 茉 穂
上尾 佐藤 知佳
玄樸 大野 真桜
中野 頓所みなみ
霞墨 佐藤 巴佳
月 小山 綾乃
松戸 美 優
一絵 宥 輔
船橋 滝田 紗恵
硯扇 北原 芽
高社 堀部こころ
飯山 清水 優衣
皓花 荒木 巴那
茅野 藤森 龍星

【中一】

雅 綾
光丘 大木
凛心 沙 詩音
名東 青山 美
華雪 高成田 摩耶
有象 有泉 唯
大象 齋藤 咲希
秀雪 高森隆太郎 美悠
霞墨 小西 由真
珠紅 福元 桜子
たけ 鈴島 遥
花蓮 大森 風語

【小六】

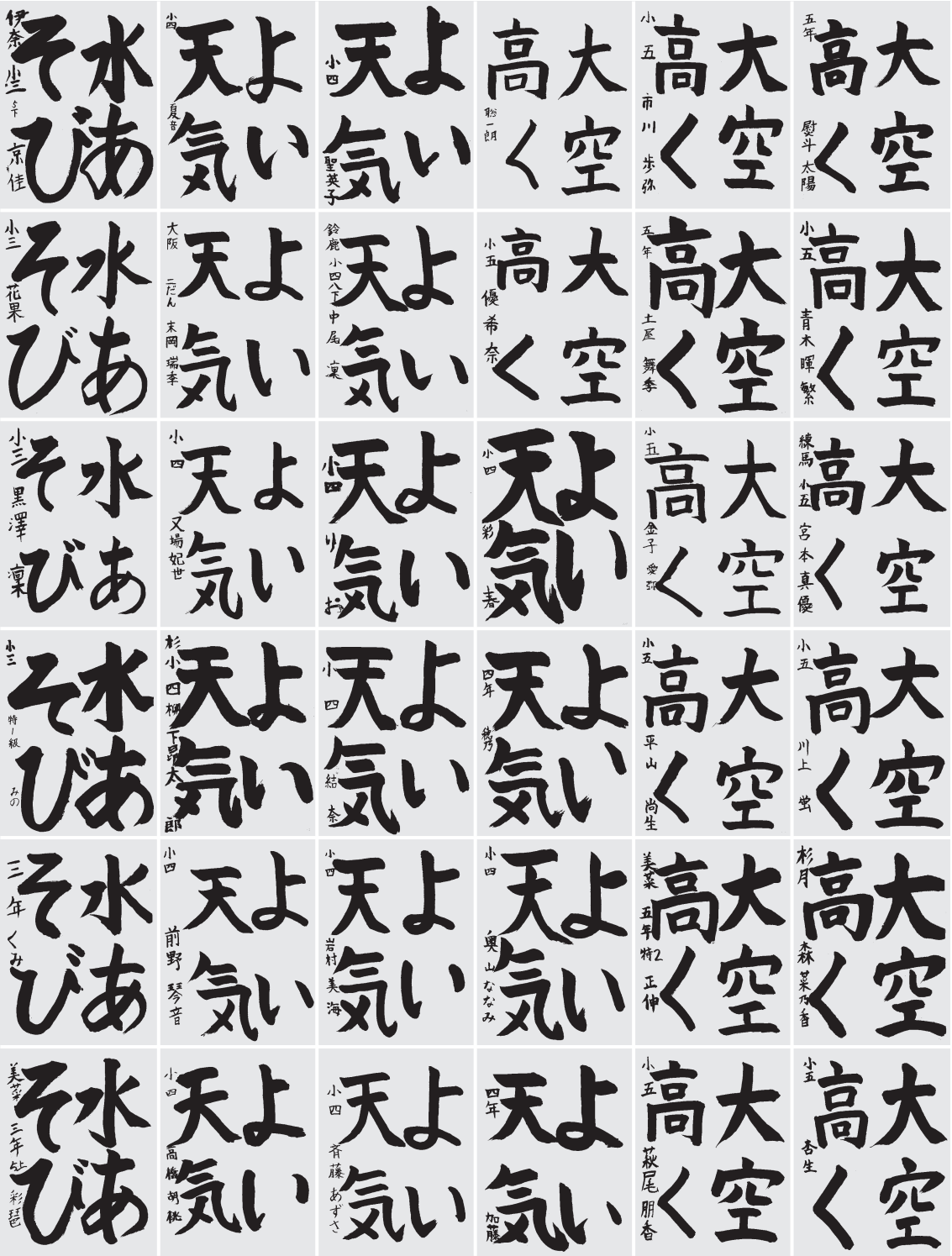
華雪 又
若松 希 場
高風 真 匠
柏芳 秋保 帆
汀楓 春花 保
サン 紗 奈
八潮 杉本 陽菜
荷葉 小島 あい
有象 高宮 悠
莉 有



久喜　高野　桜
霞墨　大久保祥子
照澤　清沢　優斗
一絵　楓
若郷　雅　未
龍文　田沼　朱理
大象　田中万祐子
光丘　佐藤　千尋
若竹　皆川恵里佳
晴美　敦　也
富士　三原　紀香
宮川　蒔　子
朝日　三田　鈴
李光　鎌田　麗加
仙台　ルチア
秀雪　渡辺かのこ
芙二　中島美紗希
城彩　西原　雅子
虹苑　真壁　美乃
大泉　聖一郎
溪月　帰山　理温
一葉　明日香
蒲田　杏　奈
小光　稲場　咲星
硯扇　萌　衣
琥山　柴嵜　夏妃

【小五】

優生　大嶋　碧
御代　桜井　杏
玄黙　廣谷真結子
宝春　富田　礼華
有穂　五十嵐　愛
富貴　工藤　麗加
千曲　橋詰　太河
芙五　安部　和音
飯山　森　さやか
美苑　小林　大悟



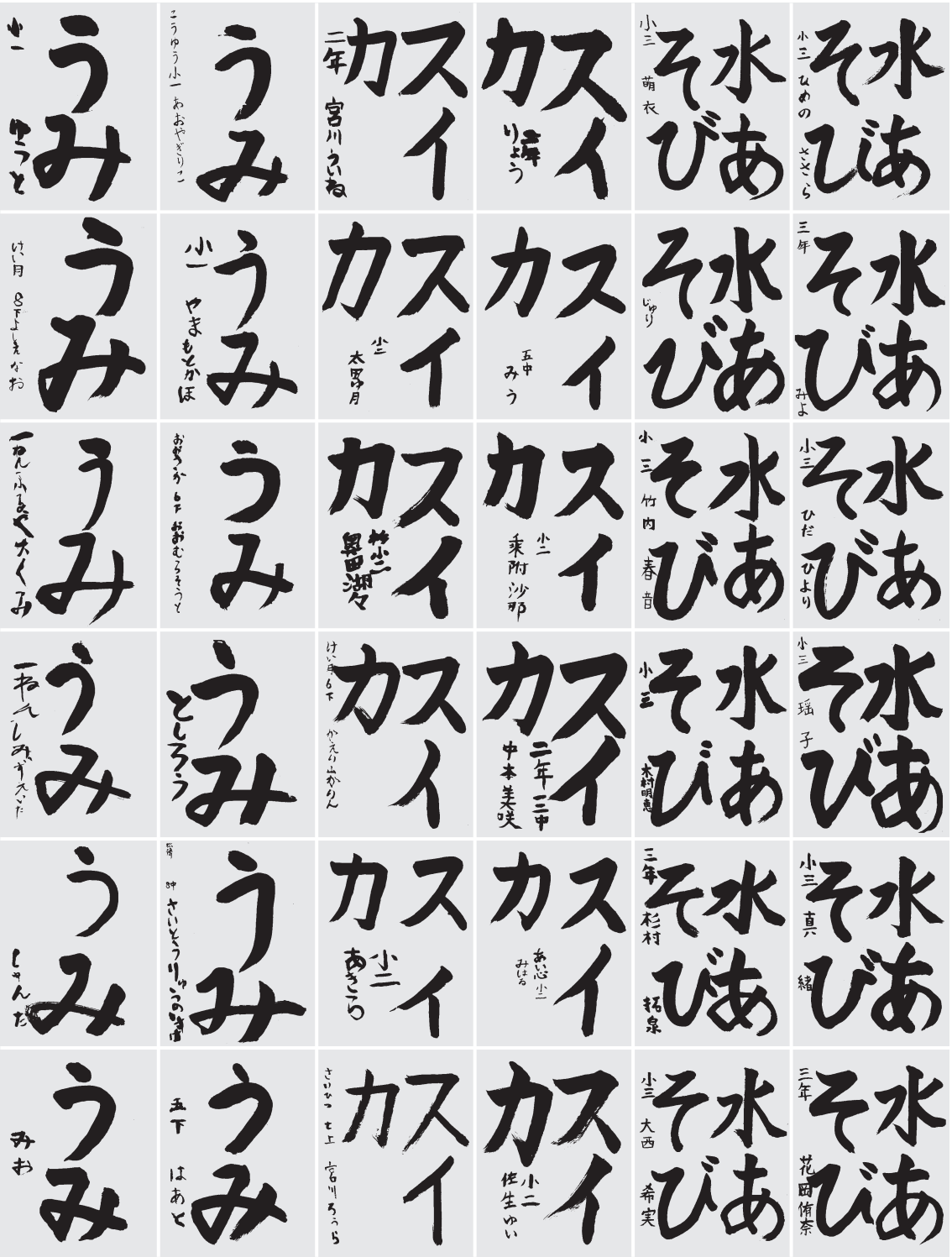
【小四】

倭 彩春
山愛 清水 穂乃
中央 奥山ななみ
朝日 加藤 楓華
黄華 聖 英子
鈴鹿 中尾 凜
若葉 りお
たけ 服部 結奈
高社 岩村 美海
若宮 斉藤あずさ
竹華 夏音
大阪 末岡 瑞季
華雪 又場 妃世
杉 柳下昂太郎
霞墨 前野 琴音
和 高橋 胡桃

源創 熨斗 太陽
茜 青木 暉繁
練馬 宮本 真優
中野 川上 蛍
杉月 森 菜乃香
光丘 阿部 杏生
若竹 市川 歩弥
硯 土屋 舞季
純心 金子 愛弥
華雪 平山 尚生
美菜 正 伸
虹苑 萩尾 朋香
玄樸 杉尾聡一朗
玄嶽 松村優希奈

【小三】

伊奈 京佳
光丘 山本 花果
華雪 黒澤 凜
珠悠 み の
山愛 浅井 久未
美菜 彩 琶



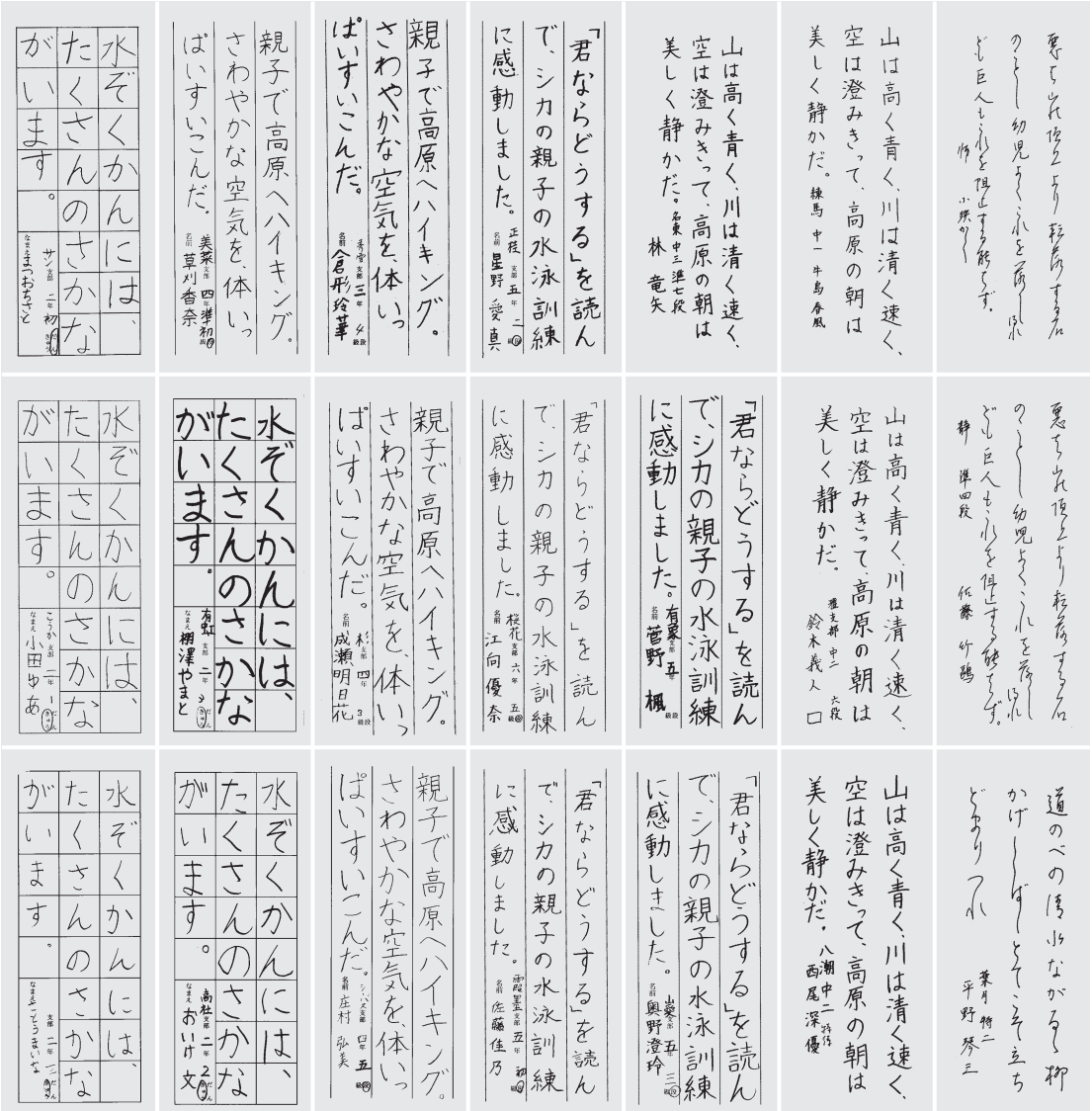
【小一】

虹友 りこ
華雪 山本 果歩
大阪 そうと
珠紅 としろう
松聲 りゅうのすけ
芙二 山田はあと
石峯 ゆうと
溪月 吉江 なお
神奈 たくみ
皓花 清水えいた
内藤 しゅんた
若松 みお

【小二】

大田 りょう
芙二 守 美羽
柏心 乗附 沙那
皓花 中本 美咲
愛心 みはる
好野 佐生 ゆい
湊 宮川ういね
青雲 太田 ゆ月
杉 奥田 湖々
溪月 かりん
華雪 デュパ 彰
彩筆 宮川ろうら

新城 さら
シー 実 世
秀雪 肥田 陽和
瑞祥 瑶 子
有虹 真 緒
湊 花岡 侑奈
倭 萌 衣
龍文 鈴木 授理
中野 竹内 春音
みな 木村 明恵
大田 杉村 拓泉
志摩 大西 希実



〔硬　筆〕

【一般】
巍山　小　映
静　佐藤　竹鷗
葉月　平野　琴三

【中学】
玄樸　虻川　梨子
練馬　牛島　春風
雅　鈴木　義人
八潮　西尾　深優
華雪　松井　佑茉
名東　林　竜矢

【小五・六】
有象　菅野　楓
山愛　奥野　澄玲
玄黙　廣田あかり
正桂　星野　愛真
桜花　江向　優奈
霞墨　佐藤　佳乃

【小三・四】
龍文　河合　野乃
秀雪　倉形　玲華
杉　成瀬明日花
シー　庄村　弘美
美菜　草刈　香奈

【小一・二】
有虹　棚澤やまと
高社　おいけ　文
サン　松尾　知聖
皓花　小田　ゆあ
大井　まいな

書象会通信条幅研究会新規入会のご案内

―11月より新年度―

上條信山先生は、高額な費用をかけずに気軽に条幅作品の研究をしてもらいたいとのお考えから、この通信条研をスタートさせました。信山先生の手本による密度の濃い研究ができることは当然ですが、月額1,000円の研究費も以来ずっと据え置かれています。

会員は３ヶ月毎、同一課題で研鑽し、作品は各月添削採点されます。11月から翌年10月までの総合得点により年間成績が決定いたします。書象会新年会席上の通信条幅研究会年間成績優秀者表彰でお馴染みですね。通信条研は11月が新年度の開始となります。10月中の入会申し込みで間に合います。新しい学習を、今、スタートさせましょう。

なお、本誌９月号27ページ下段も参考にして下さい。詳細については本部までお問い合わせ下さい。

研　修　部

書象会便り

◆読売書法展表彰式・祝賀懇親会

第31回読売書法展表彰式・祝賀懇親会が、去る八月二十三日㈯「ザ・プリンスパークタワー東京」で開催されました。正午からコンベンションホールにおいて、全国各地から出席した読売大賞・準大賞（理事から選出）読売新聞社賞・読売俊英賞（幹事から選出）読売奨励賞（評議員から選出）特選（会友・公募から選出）各受賞者を対象として中央表彰式が、その後秀逸受賞者・入選者を対象とした東京展表彰式がそれぞれ開催されました。

この後二時三十分からボールルームにおいて入選入賞者と役員など、出席者二千五百余名の盛大な祝賀懇親会がおこなわれました。本会からも多数の係・入賞入選者が出席しました。

◆夏季合宿錬成会

恒例の合宿錬成会は、去る八月九日㈯～十一日㈪の二泊三日、長野県戸倉上山田温泉で開催されました。会場となった「圓山荘」の懇切なご協力を得て、スタッフ関係者を含めて百五十名の大所帯が生活を共にする三日間は、大変貴重な体験でした。全国各地から参加した会員は、六グループにわかれて錬成を行い、本部員指導者の熱心な指導を受けて目覚しく実力向上しました。詳細は次号に紹介いたします。

《書展予告》

☆第36回書象土曜会展

会　期　十月七日㈫～十二日㈰
　　午前十一時～午後六時半（最終日五時まで）
会　場　銀座・大黒屋ギャラリー六階
特別出陳　上條信山先生

☆第六回高風書道会展

会　期　十月十日㈮～十三日㈰
会　場　谷口文栄堂三階ギャラリー（福井市）
主　宰　畑中高山先生

☆生誕一五〇年記念
日本近代書道の源泉　秋山白巌展

会　期　十月十一日㈯～十一月三十日㈰
会　場　松本市美術館　企画展示室

☆第七回榊の森書道展（榊の森書道会創立30周年記念）

会　期　十月二十四日㈮～二十六日㈰
会　場　塩尻市市民交流センター・えんぱーく三階
主　宰　樋口玄山先生

《書展報告》

☆第六回大東文化大学福井県人書道展

会　期　八月十五日㈮～十七日㈰
会　場　福井市地域交流プラザ五階ギャラリー
本会関係出品者
　賛助出品　名誉教授　田中節山
　出品　畑中高山

☆第十九回書泉会書展

会　期　九月十二日㈮～十五日㈯
会　場　山形県郷土館「文翔館」
主　宰　原田柳泉先生

発行人　（有）書象
代表　上條貞子
東京都武蔵野市吉祥寺北町四―三―六
郵便番号180-0001　電話〇四二(五三)九七四三
振替口座　〇〇一九〇―七―二五六九一
振替名儀　（有）書象
印刷所㈱高千穂印刷所

氏名

平成二十六年十月一日発行（毎月一回一日）第六十二巻　第十号　通巻七〇七号
http://www.shoshou.com
定価六〇〇円 送料八二円（クロネコメール便）